Benesse

ミライシード

テストパーク
利用マニュアル

ミライシード お問い合わせ窓口
TEL 0120-301-013
受付時間 9:00-17:00（土･日･祝、年末年始を除く）

▼ミライシードの操作や活用についての情報をご確認いただけます。
ミライシード　ファンサイト　で検索！
https://bso.benesse.ne.jp/miraiseed/fansite/

発行：株式会社ベネッセコーポレーション　2025.12 更新

目 次

1 はじめに 3

1. テストパークとは 4
2. 利用の流れ 6

2 準備のための操作 7

1. ログイン 8
2. テストを配信 14
3. テストをダウンロード 18
4. テストを開始 19

3 実施中の操作 21

1. 解答 22
2. テストの監督とテスト終了 31

4 実施後の操作 33

1. 採点と返却 36
2. 結果確認 43
3. 結果分析 46
4. 全体の概観とデータ出力 48

5 応用編 50

カスタムテストの作成 51

6 よくあるご質問 66

7 著作権について 68

ご注意ください

本マニュアルに掲載されている画面写真は2025年11月時点のもので、予告なく変更される可能性があります。
また、ネットワークや端末の動作環境については「インストールマニュアル」をご参照ください。

1 はじめに

1 テストパークとは …… p.4
2 利用の流れ …… p.6

1 …… テストパークとは

搭載されている問題※を選ぶだけ。最短約３分でテストを開始！

※カステムテスト（オリジナル問題）も作成できます。（p.51）

クラス・子どもを選択 ▶ テストを選択 ▶ テスト配信

さまざまな工夫で、採点の負荷を軽減！

1 自動で即時採点

約８割の問題は自動で採点されます。テスト終了後、すぐに自動採点。
先生は自動採点結果が正しいことを確認するだけで返却できます。

2 便利な丸付け機能で効率的な採点をサポート

手動採点が必要な問題も、効率的に丸付けできるショートカット機能や一括採点機能で効率よく採点できます。

ショートカットキー機能

マウスを操作しなくても、キーボードだけで丸付け完結。

部分点対応

１点単位で細かく採点できます。

一括採点も可能

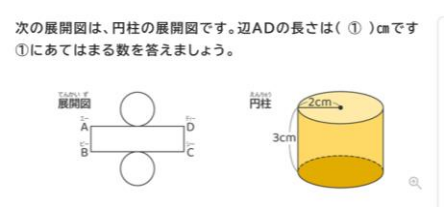
×を先につけて、残りを一括で丸。
あっという間に採点完了。

3 点数計算も、もちろん自動

時間がかかりミスの起きやすい点数計算も、丸付け後に自動集計。
総合得点だけでなく、観点別でも集計されます。

観点別に学力の定着度を精緻に確認できるテストを収録

観点別の力を測る良問をバランスよく出題



知識・技能の定着を問う問題から思考力を要する問題まで、すべての単元で収録。

紙のテスト感覚で取り組める記述式問題

全体の約２割を占める記述式問題は、手書きとキーボード入力から子ども自身が好きなほうを選んで解答できます。手書きすると、文字認識エンジンが読み取った結果をテキスト化。答えが数パターンに限られるシンプルな問題であれば、記述式問題も自動採点されます。

先生も子どもも、安心してテストを受験できます

テスト途中で
ネットワークが途中で
切れてしまうかも…

タブレットやPCでの
受験だとカンニングや
不正行為が不安で…

テストパークなら！

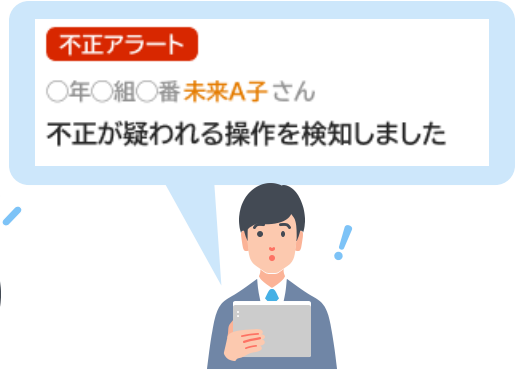
ネットワークが切れても安心

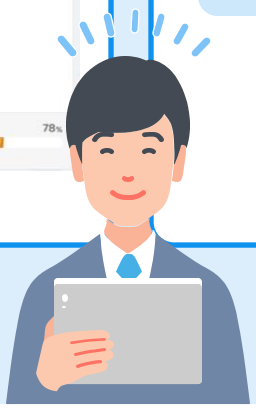
テストパークでは、問題をダウンロードしてからテストを開始する仕組みを採用しており、万が一受験中にネットワークが繋がらなくなってしまっても、子どもは解答を続けられます。
解答データは端末に保存され、再びネットワークに繋がったタイミングでサーバーに保存されるので、解答情報が消えることはありません。
※ダウンロードは約１分で完了します。

▼テスト開始前のダウンロード画面

通知機能で不正を抑止

テスト受験時はフルスクリーンモードとなり、検索機能やブラウザの機能は制限されます。
もし、他の画面を開くなど、解答に関する操作とは異なる操作をした際には、子どもには注意通知を、先生には不正通知をすることで不正行動を抑止します。



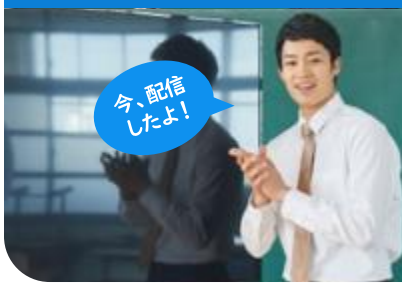


2 …… 利用の流れ

テストパークは、従来のテストと同じ流れになるよう設計。
普段の業務にスムーズに取り入れていただけます。

準備 p.7

テストと対象を選ぶだけ！
最短3分でテスト開始



先生

1 ログイン

2 テストを配信

配信したテストを一覧から選択してください。

4 テストを開始

では、テストを開始します。解答を始めてください。

⚠ 配信しただけではテストは開始されません。

子ども

3 テストをダウンロード（約1分程度）

実施中 p.21

デジタルならではの解答体験に加え、
紙と同じ感覚で手書き入力も可能

子ども

1 解答

※早めにテストを解き終わった子どもは、テスト終了前に提出できます。
※途中参加もできます。

先生

2 テストの監督とテスト終了

解答状況、不正がないか確認。
先生が任意のタイミングでテストを終了。

時間になったので、テストを終了します。

⚠ テストは自動で終了しません。
先生が手動で終了する必要があります。

子ども

先生がテスト終了をすると、子どもの解答が自動的に先生へ送信されます。

実施後 p.33

約8割のテストが自動採点。
返却スピードもUP!

先生

1 採点と返却

- テストが**自動採点**の場合：
  採点結果を確認し、問題なければ返却。
- テストが**手動採点**の場合：
  採点し、返却。

3 結果分析

平均点や正答率の低い問題を確認。

子ども

2 結果確認

- 返却されたテストの結果と、問題の解説を確認。
- 間違った問題を解き直す。

ミライシード

テストパーク
利用マニュアル

2

準備のための操作

	先生	子ども
配信	1 ログイン	→ p.8
配信	2 テストを配信 → p.14 配信したテストを一覧から選択してください。	
配信		3 テストをダウンロード → p.18 （約1分程度）
開始	4 テストを開始 → p.19 では、テストを開始します。解答を始めてください。 ⚠ 配信しただけではテストは開始されません。	

実施中の操作へ → p.21

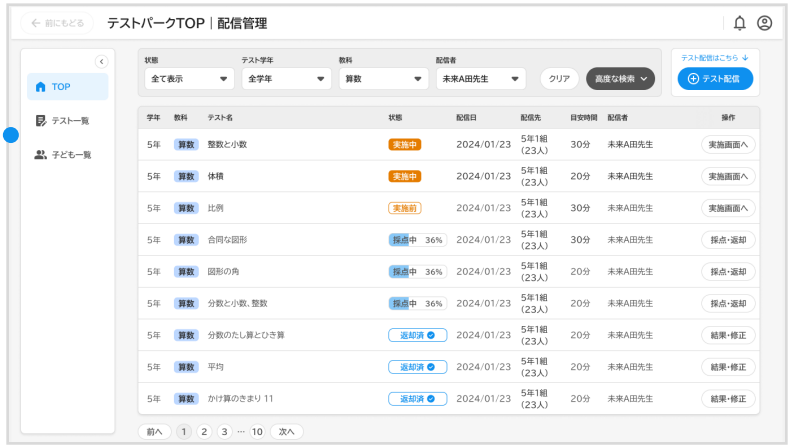
1 …… ログイン

1 先生の場合

ミライシードにログインし、テストパークを起動します。

1 ミライシードにログインし、［テストパーク］をタップ

先生用トップ画面が表示されます。



トップページのみかた・概要

テスト一覧
搭載されているテストを一覧表示します。
テスト内容（問題）も確認できます。
→次ページ

子ども一覧
子どもを一覧表示します。
→ p.12

検索
テストを検索できます。
［高度な検索］をタップすると、「配信期間」や「テスト名」などさらに高度な検索条件が表示されます。

テスト配信
新規のテスト作成画面を表示します。
→ p.14

通知
通知が表示されます。

ヘルプやマニュアルを表示できます。

結果一覧
クラスごとに、これまでのテストの得点率を一覧で確認。CSVファイルに出力もできます。
→ p.48

そのテストの学年

教科

テスト名

状態
- 実施前…テストが配信済みで、まだ開始されていない状態です。
- 実施中…テストが開始されています。
- 採点中…テストが採点中で、まだ返却されていない状態です。
- 返却済…採点結果を返却し終わったテストです。

配信日

配信先のクラス

テストの所要目安時間

テストを配信した先生

テストの［状態］に合わせたボタンが「操作」欄に表示されます。
- 実施前、実施中…実施画面へ（p.19）
- 未採点、採点中…採点・返却（p.34）
- 返却済…結果・修正（p.42）

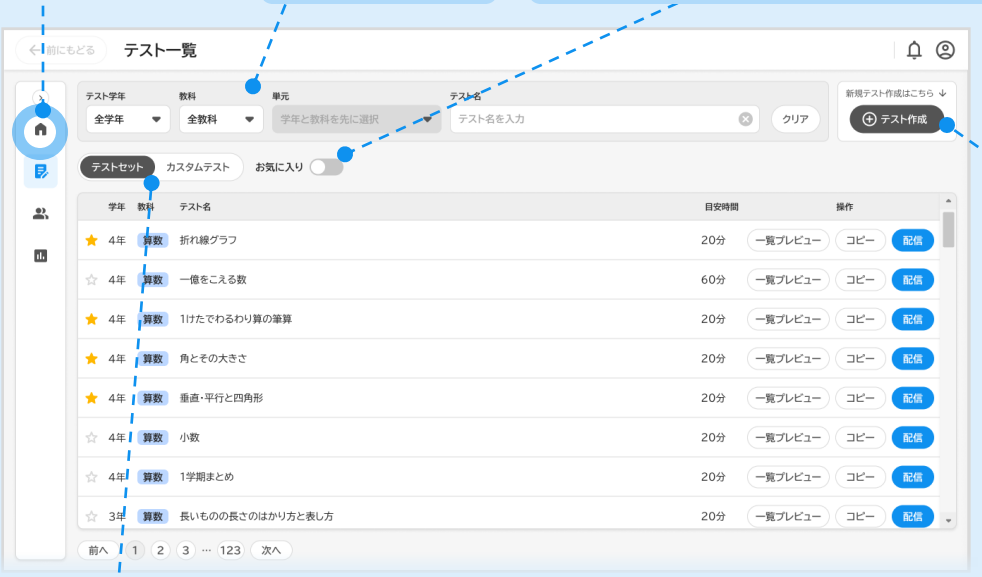
トップページのみかた・概要

テスト一覧

テストパークのトップページに戻ります。

検索
テストを検索できます。

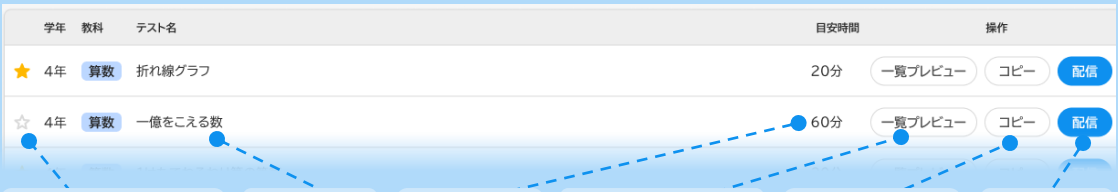
お気に入り
お気に入り（★）に登録しているテストのみ表示できます。



テスト作成
オリジナル問題でカスタムテストを作成できます。既存の問題を組み合わせることもできます。
→ p.51

テストセット／カスタムテスト

● **テストセット** … 教科書に合わせたベネッセ提供のテスト群です。



★（お気に入り）
タップするとお気に入りに追加します。再度タップするとお気に入りを解除できます。

学年・教科・テスト名

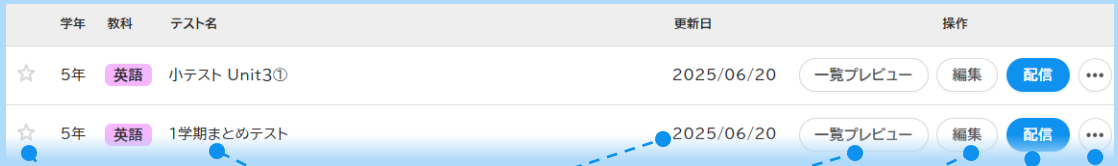
目安時間
テストの目安所要時間です。

一覧プレビュー
テストの問題群を確認できます。
→ 次ページ

コピー
テストをコピーしてカスタムテストを作成します。
→ p.53

配信
配信画面を表示します。
→ p.14

● **カスタムテスト** …先生ご自身が作成したテストです。（カスタムテストの作成方法はp.51を参照）



★（お気に入り）
タップするとお気に入りに追加します。再度タップするとお気に入りを解除できます。

学年・教科・テスト名

更新日

一覧プレビュー
テストの問題群を確認できます。
→ 次ページ

編集
テストを編集します。
→ p.65

配信
配信画面を開きます。
→ p.14

⚠ 他の先生が作成したカスタムテストは表示されません。

…
- コピーして作成…テストを複製して新しいテストを作成できます。
- 削除…テストを削除します。

一覧プレビュー

テストの問題群を確認できます。

サムネイルサイズ

小・中・大からサムネイルの表示サイズを選択します。

答えを常時表示

答えの表示・非表示を切り替えられます。

コピーして作成／編集

- テストセットの場合 …［コピーして作成］が表示されます。
- カスタムテストの場合 …［編集］が表示されます。

このテストを配信

表示中のテストの配信画面を表示します。

→ p.14

答え

画面左側に、選択した問題の答えが表示されます。

プレビュー（▶）

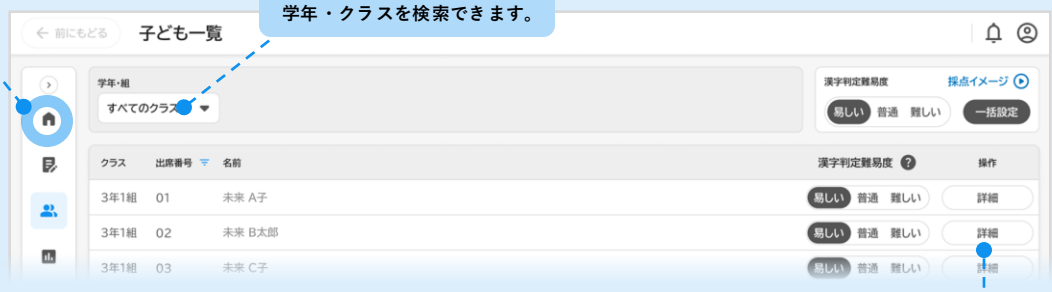
テストの問題や解答方法、正答を確認できます。

トップページのみかた・概要

子ども一覧

テストパークのトップページに戻ります。

検索
学年・クラスを検索できます。



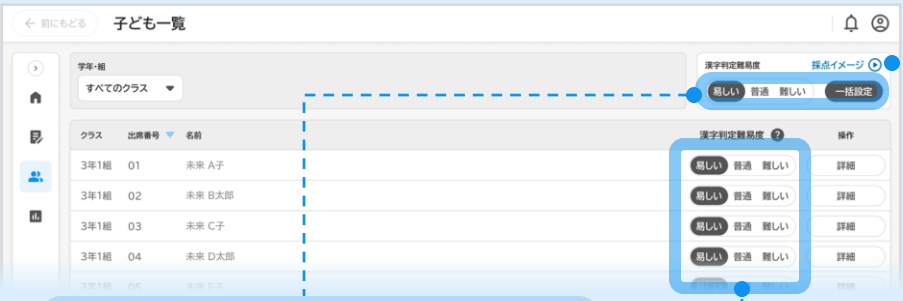
詳細
その子どもに配信されたテストを一覧表示します。

テストの「状態」に合わせたボタンが「操作」欄に表示されます。

- 実施前、実施中…実施画面へ（p.19）
- 未採点、採点中…採点・返却（p.34）
- 返却済…結果・修正（p.42）
- 解き直し中、解き直し済…解き直し（p.44）

漢字判定難易度

- 漢字問題の採点難易度を３段階（易しい・普通・難しい）で設定できます。
- 初期設定では「普通」に設定されています。
- 子どもごとに個別、または一括で設定できます。



一括で設定
表示中の学年・クラス全員に一括で難易度を設定できます。画面左上の「学年・組」を設定してから、画面右上「漢字判定難易度」で難易度を選択して［一括設定］をタップします。

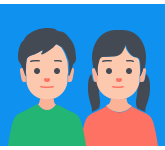
個別に設定
一人ひとり個別に難易度を設定できます。

採点イメージ
難易度ごとの採点イメージを確認できます。

1. 難易度を選択
2. ペンや手書きで「永」を入力
3. ［採点する］をタップ

選択した難易度での採点結果が表示されます。

2 子どもの場合



ミライシードにログインし、テストパークを起動します。

1 ミライシードにログインし、［テストパーク］をタップ

子ども用テストパークホーム画面が表示されます。

通知
通知が表示されます。

マニュアルを表示できます。

教科
特定の教科のテストに表示を絞り込めます。

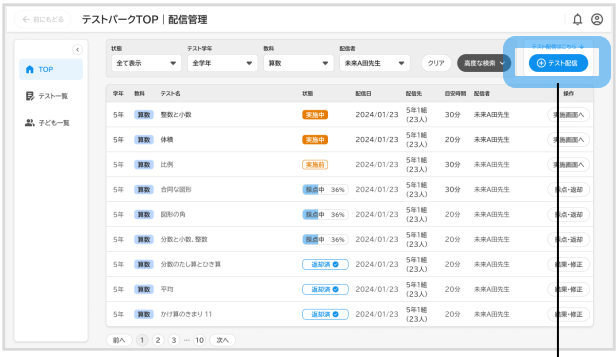
これからやるテスト
先生から配信されたテストが表示されます。

実施済みのテスト
先生から返却されたテストが表示されます。

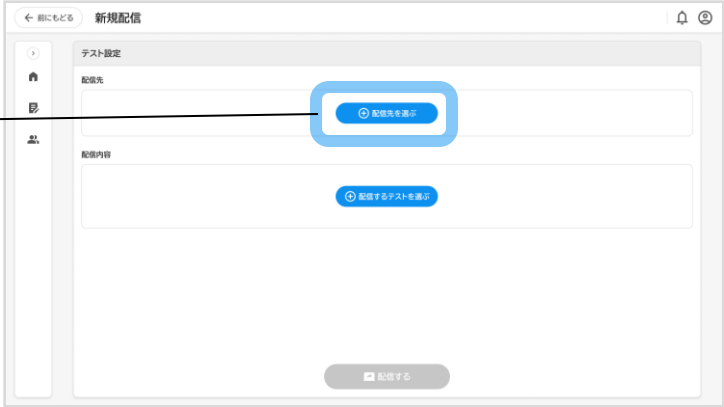
着せ替え
背景の画像を変更できます。

2 …… テストを配信

- 搭載されている問題を選ぶだけ。最短３分でテストを開始できます。複数クラスへの配信や、欠席者など一部の子どもを除いたテスト配信ができます。
- カスタムテスト（オリジナル問題）も選択できます。カスタムテストは事前に作成しておく必要があります。➜ カスタムテストの作成方法はp.51



1 ［テスト配信］をクリック



2 ［配信先を選ぶ］をタップ

3 配信先の学年や組を選択

最大15クラスまで選択できます。

4 ［次へ］をタップ

選択したクラスが表示されます。

5 子どもを選択

初期値では全員が選択されています。
欠席等でテストを配信しない子どもがいる場合はチェックを外します。

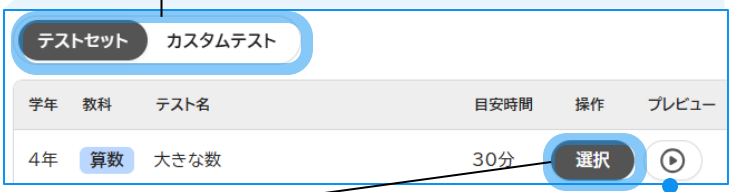
6 ［決定］をタップ

7 ［配信するテストを選ぶ］をタップ

8 学年・教科・単元やテスト名を設定して、検索

9 テスト種別を選択

- **テストセット** … 教科書に合わせたベネッセ提供のテスト群です。
- **カスタムテスト** …先生がご自身が作成したテストです。（カスタムテストの作成方法はp.51を参照）



10 配信するテストの［選択］をタップ

プレビュー

問題文を確認するだけでなく、子どもと同じように取り組むことができます。

→ 問題の取り組み方はp.22参照

選択したテストが表示されます。

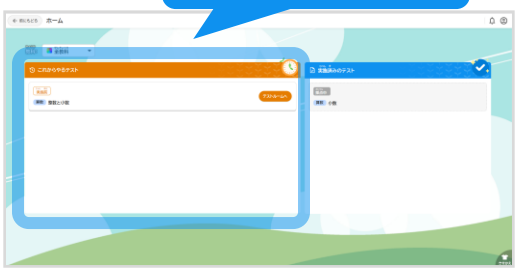
11 ［配信する］をタップ

→ 漢字問題の判定難易度を変更する場合はp.17

子どもの端末にテストが配信されます。

子どものテストパークトップページ「これからやるテスト」欄に、配信したテストが表示されます。

「これからやるテスト」欄に表示



配信しただけではテストに取り組めません。

先生が「テストを開始」すると、子どもがテストに取り組めるようになります。

→ p.19

配信済のテスト

配信済のテストは、トップページ（配信管理）に表示されます。
配信したばかりのテストは状態が［実施前］になっています。テストをタップすると、テスト詳細画面を表示します。
テスト詳細画面からテストを開始（p.19）できます。

▼テスト詳細

テスト開始
→p.19

テスト削除
状態が［実施前］に限る

問題プレビュー

- **テストの問題や解答方法、正答を子どもと同じ画面で確認できます。**
- **問題プレビューでは、漢字問題の判定難易度はすべて「普通」になります（「易しい」「難しい」での確認できません）。実際のテストでの判定難易度は変更できます。**
  → p.17

子ども一覧

テスト開始前に限り、漢字問題の判定難易度を変更できます。
→ p.12

解き方・使い方

子どもがテストをダウンロードする画面およびテスト中の問題画面に表示される「とき方・使い方」と同じ内容を確認できます。
テストのダウンロード中（p.18）に子どもに確認するようご指示ください。

- **［実施前］のテストに限り、テストを削除できます。**
- **配信したテストは、変更できません。**
  テストの配信先や配信内容（問題）は、テストの状態に限らず変更できません。
  配信先や配信内容を修正する場合は、テストを削除してから正しい配信先・配信内容のテストを作成し直してください。

トップページ（配信管理）には、他の先生が配信したテストも表示されます。

カスタムテスト※含め、テストが配信済みになると他の先生のトップページ（配信管理）に表示されるようになります。※ただし、カスタムテストは他の先生の「テスト一覧」には表示されません。テストを作成した先生の「テスト一覧」のみに表示されます。

漢字判定難易度の設定

- 漢字判定難易度は、p.12の「子ども一覧」で設定している値が初期値となります。
- 配信済みテストのテスト実施画面の子ども一覧（テストの対象者一覧）では、**そのテストにおける漢字判定難易度**を変更できます。（初期値および他のテストには変更が反映されません。）
  テスト対象者全員に一括で難易度を変更したり、任意の子どもだけ変更したりできます。
- ただし、難易度を**変更・確認できるのはテスト開始前**に限ります。テスト開始後には変更・確認できなくなります。

1 トップページ（配信管理）に表示されている配信済みのテストのうち、難易度を設定したいテストの［実施画面へ］をタップ

2 ［子ども一覧］をタップ

問題プレビュー
問題プレビューで、そのテストの漢字問題を試し解きし、答え合わせして自動採点の結果を確認できます。
ただし、問題プレビューでは判定難易度はすべて**「普通」**に設定されています。（「易しい」「難しい」での確認できません。）

3 難易度を変更

ここで変更した難易度設定はそのテストのみに適用されます。
→ 初期値そのものを変更する場合はp.12参照（ただし、初期値を変更しても、配信済みテストには反映されません。）

個別に変更
子どもごとに難易度を変更できます。

一括で変更
難易度を選択して［一括設定］をタップすると、テスト対象者の設定を一括で変更できます。

採点イメージ
→ p.12

3 …… テストをダウンロード

子ども

配信されたテストが、子どもの端末のテストパークに表示されます。
問題は自動でダウンロードされるので、テスト中にネットワークが切れてもテストを継続できます。

1 取り組みたいテストの［テストルームへ］をタップ

テストのダウンロードが自動で開始されます。

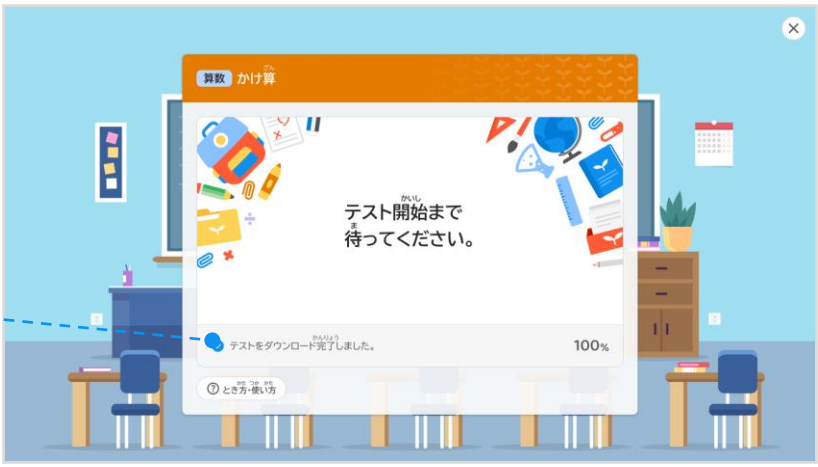
とき方・使い方

テストの注意点や操作方法を確認できます。テストのダウンロードが完了するまでの間、［とき方・使い方］を閲覧するようご指示ください。

ダウンロード中に「とき方・使い方」を見ておきましょう。

※先生画面でも［とき方・使い方］の内容を確認できます。→p.16

ダウンロード進捗が100%になると、「テストをダウンロード完了しました。」の文言が表示されます。先生は、子どものダウンロード状況を先生画面で確認できます。
→ p.19



ダウンロードが完了しただけではテストに取り組めません。
先生が「**テストを開始**」すると、子どもがテストに取り組めるようになります。

→ 次ページ

4 …… テストを開始

すべての子どもがテストをダウンロードできたことを確認してから、テストを開始します。

※子どもはテストのダウンロードが完了していても、先生がテストを開始するまで問題画面を表示できません。

▼テストパークトップ画面（配信管理）

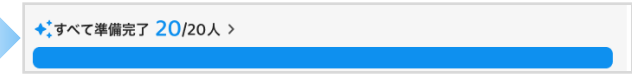
1 該当テストの［実施画面へ］をタップ

2 テストの準備（ダウンロード）状況を確認

全員がテストのダウンロードを完了したら、「すべて準備完了」（青色）に変わります。

▼準備完了状況

▼すべて準備完了



子ども一覧

［子ども一覧］をタップすると、準備が完了した子ども・準備できていない子どもを確認できます。
「未準備」で絞り込むと、ダウンロードが完了していない子どもだけを一覧表示できます。

漢字問題の含まれるテストでは、テスト開始前に限り、漢字判定難易度を変更できます。➔ p.17（テスト開始後は変更できなくなります。）

3 準備完了※になったら、［テスト開始］をタップ

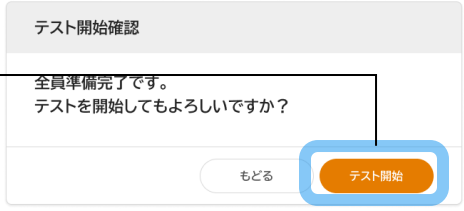
※ 全員が準備完了にならなくとも、テストは開始できます。

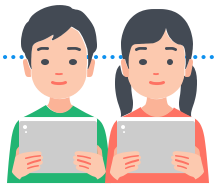
全員が準備完了にならない場合でも、テストを開始できます。

- **遅刻やネットワークの問題でダウンロードが遅れている子どもがいるとき**
  「未準備（＝テストのダウンロードが完了していない）」状態の子どもがいても、テストは開始できます。その場合、「未準備」の子どもは、テストのダウンロードが完了次第、テストを開始できます。
- **欠席している子どもがいるとき**
  テストの開始から終了までに一度も解答画面を表示しなかった子どもは、採点対象から除外されます。欠席した子どもにテストを受けさせる場合は、その子どもだけのテストを作成し、新規に配信してください。

4 ［テスト開始］をタップ

テストのダウンロードが完了していない子どもがいる場合は、
その子どもの氏名が表示されます。





子どもの画面でカウントダウンが表示され、テストが開始されます。

「3・2・1」のカウントダウンが終了すると、一斉にテストが開始されます。

テストは先生が終了しない限り終わりません。
テストの終了時間がきたら、先生が手動でテストを終了してください。

→ p.32

ミライシード

テストパーク
利用マニュアル

3

実施中の操作

解答

提出

先生

2 テストの監督とテスト終了

解答状況、不正がないか確認。
先生が任意のタイミングでテストを終了。

→ p.31

時間になったので、テストを終了します。

⚠ テストは自動で終了しません。先生が手動で終了する必要があります。

子ども

1 解答

→ p.22

※ 早めにテストを解き終わった子どもは、テスト終了前に提出できます。
※ 途中参加もできます。

先生がテスト終了をすると、子どもの解答が自動的に先生へ送信されます。

実施後の操作へ（採点など） → p.33

1 …… 解答

- テストが開始されると、解答画面が表示されます。
- 先生がテストを終了するまで、解答できます。

テストは先生が終了しない限り終わりません。
テストの終了時間がきたら、先生が**手動でテストを終了**してください。 → p.32
※ テストの終了前にすべての設問を解き終わった子どもは、［提出する］ボタンからテストを終えることもできます。

1 解答画面の見方

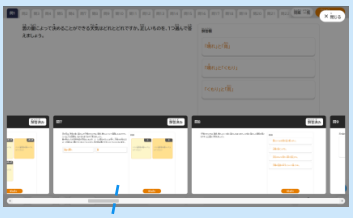
問題番号
問題番号をタップすると、その番号の問題が表示されます。

現在表示中の問題

解答が完了した問題には（✓）を表示

未解答の問題

問題一覧
問題をサムネイル表示して俯瞰できます。テスト開始時に全体の見通しを立てるとき、テストの最後に見直すときなどに利用できます。



問題
画面左側に問題文が表示されます。（解答形式が並び替えやドラッグ・アンド・ドロップの場合はその選択肢も表示されます。）
※一部の問題には「ヒント」が表示されます。

解答欄
さまざまな解答形式があります。
→ p.25

提出する
すべての設問を解き終わったら提出します。

解答リセット
解答を未入力・無選択状態に戻せます。

とき方・使い方
テストのダウンロード時に表示される「とき方・使い方」と同じ説明を表示できます。
→ p.16

表示設定
→ 次ページ

メモ
紙のテストと同じ感覚で、計算の途中式など思考の過程をメモしながら答えを考えることができます。
（先生は子どもの「手書きメモ」の内容も採点時に確認できます。→p.38）

消しゴム
手書きメモを消せます。
手書きメモをすべて削除できる「全消し」も選択できます。

前の問題へ・次の問題へ
［＜］で前の問題を、［＞］で次の問題を表示します。

表示設定

問題および解答文のルビ表示、「漢字テスト」用の利き手、「英語記述式問題」用の利用キーボードを設定できます。

ルビ表示

- 通常ルビ … 学年に応じて、必要な漢字にのみルビが表示されます。初期設定は「通常ルビ」です。

▼ 通常ルビの例（4年生）

日本には、たくさんの外国人が住んでいます。福岡市に住む外国人は、およそ何人いますか。次のグラフを見て、正しいものを、1つえらんで答えましょう。

- 総ルビ … すべての漢字にルビを表示します。

▼ 総ルビの例（4年生）

日本には、たくさんの外国人が住んでいます。福岡市に住む外国人は、およそ何人いますか。次のグラフを見て、正しいものを、1つえらんで答えましょう。

漢字｜きき手

利き手を設定すると、漢字問題の解答欄の位置を利き手に合わせられます。

- 右手 … 画面右側に解答欄が表示されます。初期設定は「右手」です。

▼ 右手の場合の「漢字問題」解答画面

- 左手 … 画面左側に解答欄が表示されます。

▼ 左手の場合の「漢字問題」解答画面

英語｜利用キーボード

利用キーボードを設定すると、英語の記述式問題で画面上にキーボードを表示させる/させないを選択できます。

- テストパーク専用 … 画面上にキーボードが表示されます。画面上のキーボードをクリックするか、PC等のキーボードで入力することで解答ができます。初期設定は「テストパーク専用」です。

▼ テストパーク専用の場合の「英語記述問題」解答画面

- 自分のキーボード … 画面上にキーボードが表示されません。PC等のキーボードで入力することで解答ができます。

▼ 自分のキーボードの場合の「英語記述問題」解答画面

タブレットなどキーボードがないデバイスでテストを行う場合は必ず「テストパーク専用」を選択してください。デバイスにキーボードがない場合に「自分のキーボード」に設定すると解答が入力できません。

2 基本の流れ（開始から終了まで）

1 問題に取り組む

問題によりさまざまな解答形式があります。

➔ 解答バリエーション…次ページ

▼解答画面

2 ［>］をタップして次の問題へ

3 問題の数だけ１・２を繰り返し、すべての問題に取り組む

解答途中に解答画面から離脱しようとすると（例えば他のアプリを起動しようとするなど）、「この操作は制限されています。」の画面（下図）が表示されます。

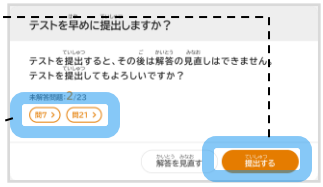
先生には、子どもが解答画面から離脱しようとした旨を「不正アラート」として自動通知します。→p.31

4 すべての問題がおわったら、［問題一覧］をタップして問題を見直す

「問題一覧」をスクロールして「解答済み」になっていない問題や、解き直したい問題が残っていないか確認。

5 終了時間より早くテストが終わった場合は、［提出する］をタップして提出

- **提出後は解答を編集できません**。［提出する］をタップすると、子どもに「提出後に見直しできないこと」、未解答の問題数をダイアログ（右図）で表示します。
- 未回答として表示されている問題番号をタップすると、その問題が表示されます。
- 先生によりテストが終了されたら、全員のテストが提出扱いとなります。



6 「テストお疲れさまでした！」画面が表示されたらテスト終了

3 解答形式のバリエーション

単一選択

問題指示文

「正しいものを１つ選んでください」等

選択肢の中から１つだけ選択する解答形式です。

※選択肢はテキストまたは画像で表示されます。

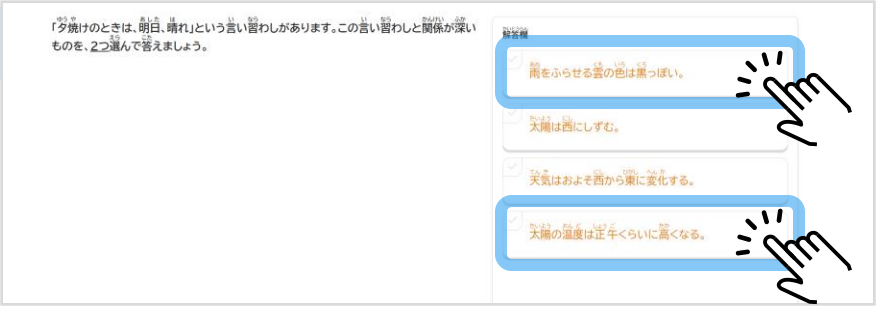
複数選択

問題指示文

「正しいものをすべて選んでください」等

選択肢の中から複数を選択する解答形式です。

※選択肢はテキストまたは画像で表示されます。



ドラッグ&ドロップ分類

問題指示文

「正しいもの、正しくないものをそれぞれ１つ選んでください」等

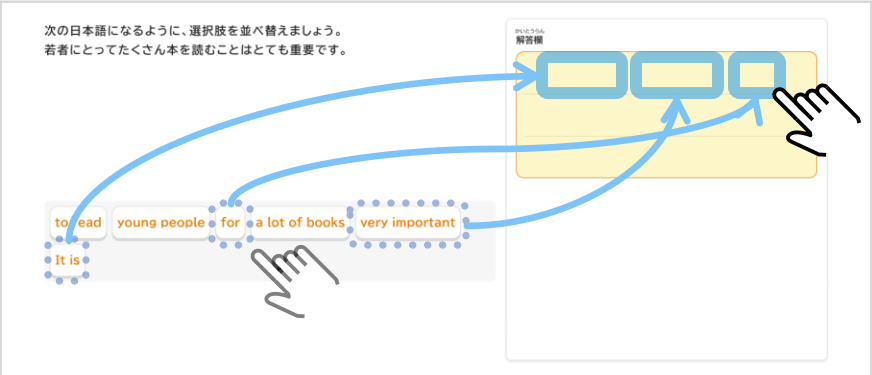
選択肢を解答欄の所定の位置にドラッグ＆ドロップして配置する解答形式です。

ならべかえ

問題指示文

「正しい順番で並べ替えてください」等

語順などを問う問題に対し、正しい順番で選択肢を並べ替える解答形式です。



日本語・漢字読み仮名入力（手書きまたはキーボード）

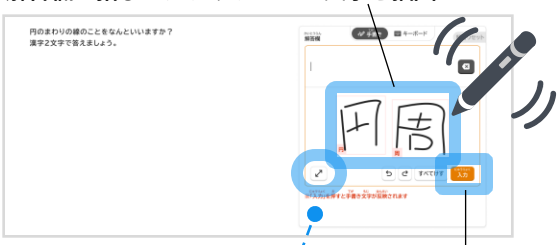
問題指示文　「空欄にあてはまる文章を答えてください」等

記述式問題の解答形式です。指やタッチペンによる手書き、またはキーボード入力のいずれかを選んで解答できます。

［手書き］または
［キーボード］を選択

手書き

1 解答欄に指またはタッチペンで文字を描画



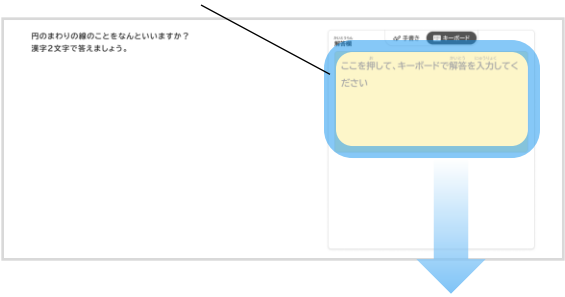
で入力欄を拡大できます。

2 ［入力］をタップ

手書き文字が判定され、解答欄に判定後の文字が表示されます。

キーボード入力

1 解答欄をタップ



2 キーボードが表示される※ので、文字を入力

※パソコンなど物理キーボードがある場合は物理キーボードでも入力できます。

※「漢字の読み仮名」を問う問題の場合は、読み仮名用のキーボード（下図）が表示されます。

▼ 漢字読み仮名用のキーボード

数式入力（手書きまたはキーボード）

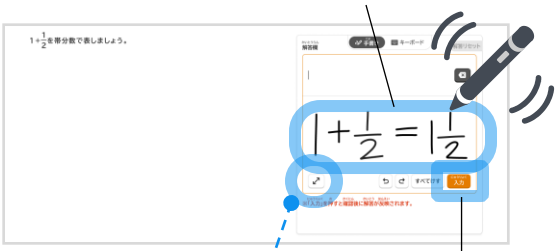
問題指示文　「〇〇の数を求める式を書きましょう」等

数式における記述式問題の解答形式です。
指やタッチペンによる手書き、またはキーボード入力のいずれかを選んで解答できます。
※中学校の場合は「手書き」が表示されません。

［手書き］※小学校のみ表示
または
［キーボード］を選択

手書き ※小学校のみ表示

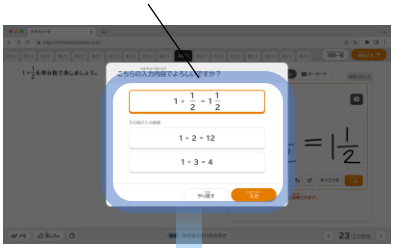
1 解答欄に指またはタッチペンで文字を描画



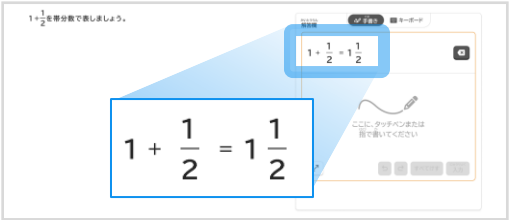
2 ［入力］をタップ

3 入力結果を選択

手書き文字が判定され、判定後の文字候補が選択肢で表示されます。正しい入力結果を選択し、［入力］をタップします。



選択した入力結果が解答欄に表示されます。



キーボード入力

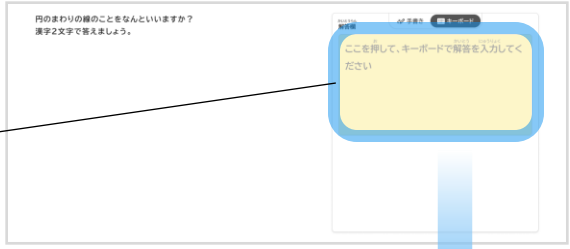
1 解答欄をタップ

2 数式用のキーボードが表示されるので、文字を入力

英語入力（キーボード）

問題指示文 **「空欄にあてはまる単語を答えてください」等**

記述式問題の解答形式です。キーボード入力で解答します。



1 解答欄をタップ

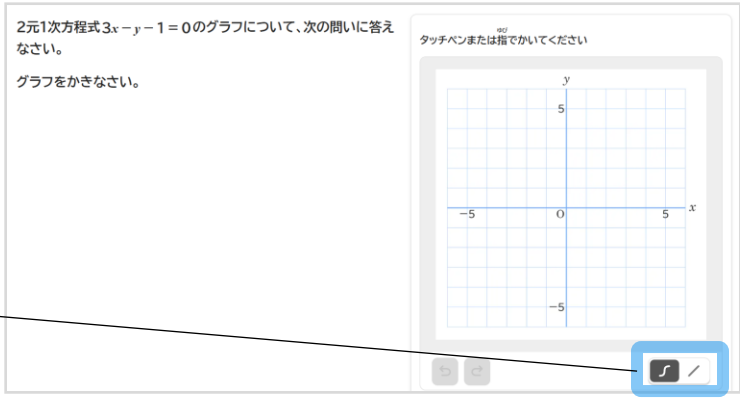
2 キーボードが表示される※ので、文字を入力

※パソコンなど物理キーボードがある場合は物理キーボードでも入力できます（ただし、画面上のキーボードと同じ文字・記号のみ入力できます）。

図版への書き込み（手書き）

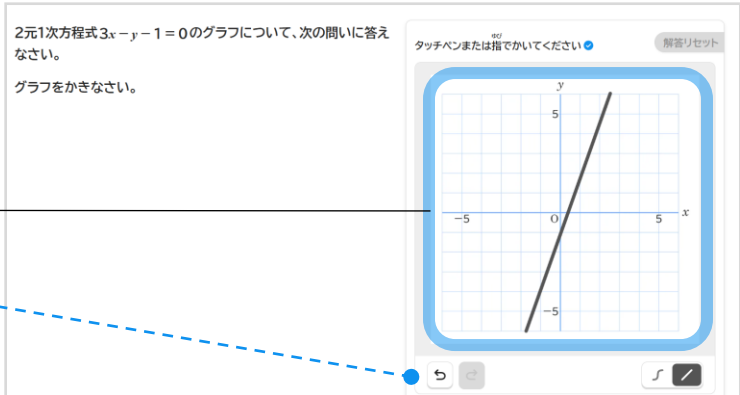
問題指示文 **「次の関数のグラフをかきなさい」等**

グラフを手書きで描画する解答形式です。指やタッチペンによる手書きで入力します。
なお、グラフを描画して解答する問題は、自動採点されないため、**手動での採点**が必要です。



1 自由線（∫）または直線（／）を選択

直線グラフの場合は直線を、放物線グラフなどのグラフは自由線を選択します。



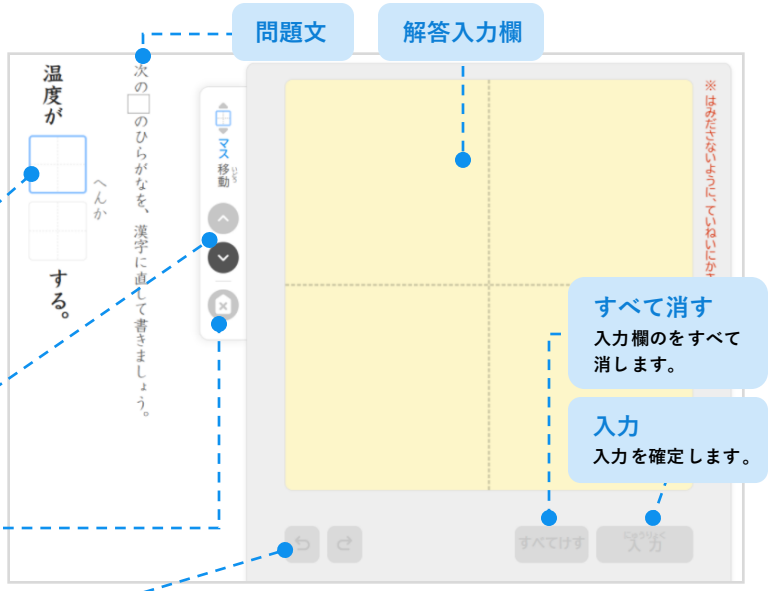
2 グラフを描画

（やり直し／元に戻す）
入力した線を１ストロークずつやり直し、またはやり直したストロークを元に戻せます。

漢字の書き取り（手書き）

問題指示文 **「次のカタカナを、漢字に直しましょう」等**

１マスごとに漢字や送り仮名を解答する解答形式です。手書きで入力します。



解答欄
入力欄で確定された入力結果が表示されます。現在選択中のマスは枠色が水色で表示されます。任意のマスをタップすると、そのマスの入力欄が表示されます。

マス移動
入力欄を任意のマスに移動できます。

削除
そのマスの内容を削除します。

（やり直し／元に戻す）
入力中の文字を１ストロークずつやり直し、またはやり直したストロークを元に戻せます。

すべて消す
入力欄のをすべて消します。

入力
入力を確定します。

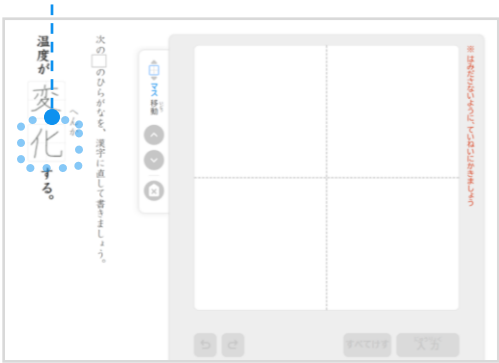
下記は２マスの文字の漢字（「変」「化」）を入力する問題の場合の手順です。初期状態で、１マス目の解答欄が選択されています。

1 １マスめの文字を入力
例では「変」を入力します。

2 ［入力］をタップ
［入力］をタップすると、入力欄の文字が解答欄に移動します。
同時に、入力欄が次のマスのものになります。

3 ２マスめの文字を入力
例では「化」を入力します。

4 ［入力］をタップ
［入力］をタップすると、入力欄の文字が解答欄に移動します。
この例の場合は２マスの解答欄が埋まれば解答は完了です。次の問題に進みます。

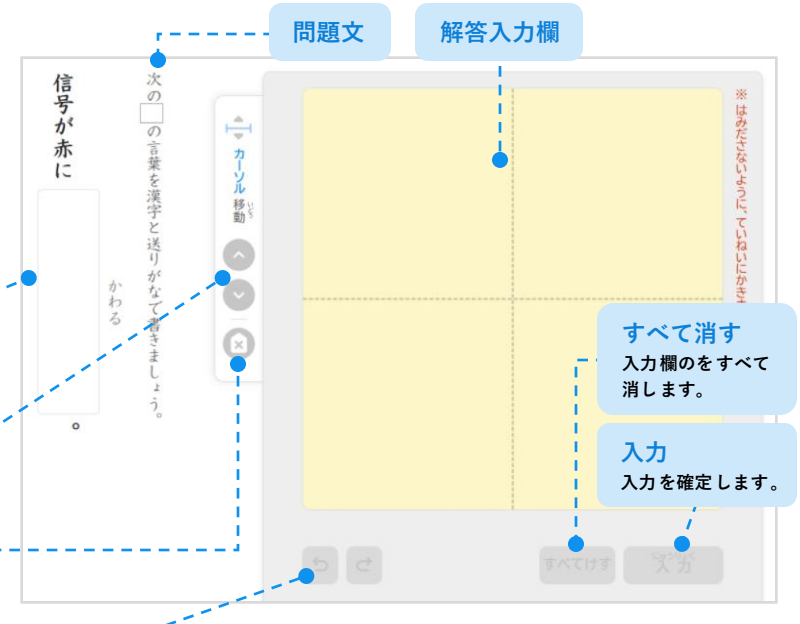


漢字問題は自動採点されますが、マスをはみだしている場合や、不要な点や線などが文字に含まれてしまった場合などには不正解となります。必ず自動採点結果を確認し、許容される解答は正解に変更してください。 ➔ p.35

漢字と送り仮名の書き取り（手書き）

問題指示文 **「次のカタカナを、漢字に直しましょう」等**

１つの枠内に複数の漢字や送り仮名を解答する解答形式です。手書きで１文字ずつ入力します。



解答欄
入力欄で確定された入力結果が表示されます。上に青いカーソルがある文字が入力欄に表示されます。入力済みの文字をタップして入力欄に表示することもできます。

カーソル移動
枠内のカーソルを移動で移動できます。

削除
カーソルが表示されている文字の直上の文字を削除します。

（やり直し／元に戻す）
入力中の文字を１ストロークずつやり直し、またはやり直したストロークを元に戻せます。

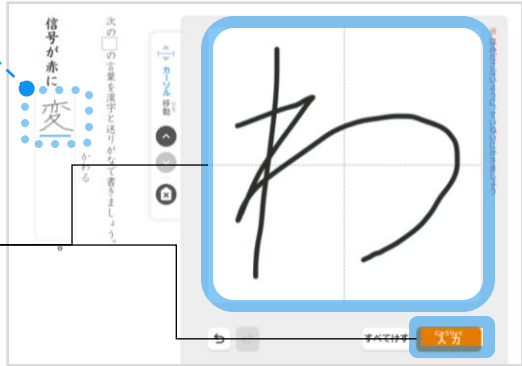
すべて消す
入力欄のをすべて消します。

入力
入力を確定します。

下記は１つの枠に３文字（「変」「わ」「る」）を入力する問題の場合の手順です。

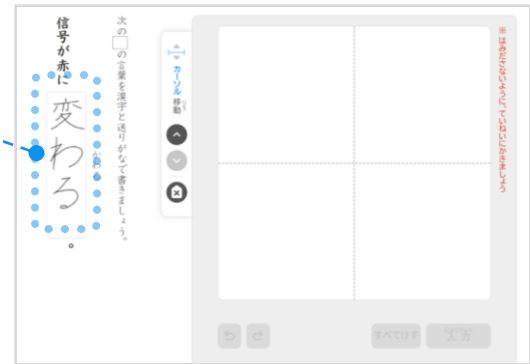
❶ １つめの文字を入力
例では「変」を入力します。

❷［入力］をタップ
［入力］をタップすると、入力欄の文字が解答欄に移動します。



❸ ❶❷と同様の手順で、２つめ、３つめの文字を１文字ずつ入力
例では２つめに「わ」、３つめに「る」を入力します。

解答欄を埋めたら、解答は完了です。次の問題に進みます。



漢字問題は自動採点されますが、マスをはみだしている場合や、不要な点や線などが文字に含まれてしまった場合などには不正解となります。必ず自動採点結果を確認し、許容される解答は正解に変更してください。 ➔ p.35

2 …… テストの監督とテスト終了

先生

テスト中は、子どもの解答状況（提出数）と、不正がないか先生用画面で監督できます。
不正が疑われる操作（テスト中に他のアプリなどに遷移しようとしたとき）は通知欄にお知らせを表示。
テストの終了時間が来たら、任意のタイミングでテストを終了します。

テストは先生が終了しない限り終わりません。
テストの終了時間がきたら、先生が**手動でテストを終了**してください。

1 テストの監督

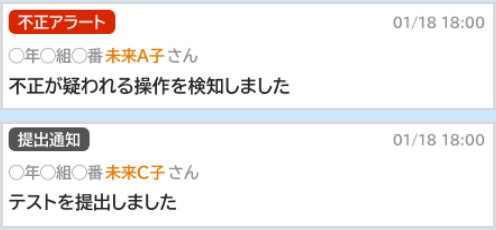
テストを開始すると、テスト詳細画面にテストの進捗状況が表示されます。

経過時間

テスト開始からの時間が表示されます。テストの終了時間になったら、テストを終了してください。
※テストは自動で終了しません。

通知

- **不正アラート… 子どもが解答画面以外の操作をしようとしたときに表示される通知です。**
（子ども本人には「この操作は制限されています。」のメッセージが表示されます。）
- **提出通知… 子どもがテストを提出すると表示される通知です。**



テスト提出済

テストを提出した子どもの数が表示されます。

解き方・使い方

子どもの画面に表示される「とき方・使い方」と同じ説明を表示できます。
→ p.16

子ども一覧

提出前の子ども、提出が終わった子どもを一覧で確認できます。

▼未提出…提出前の子ども

1｜未来A子　3年2組　未提出

▼提出済…提出が終わった子ども

6｜未来F太　3年2組　提出済

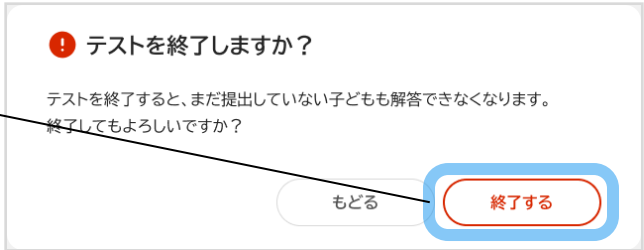
「未提出」または「提出済」を選択して表示を絞り込めます。

2 テストの終了

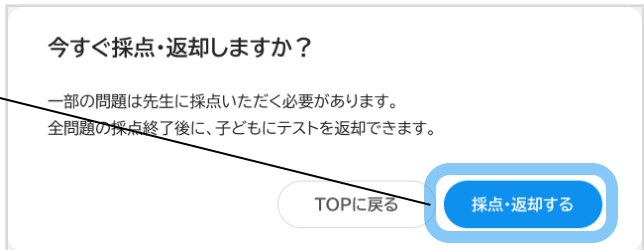
テストは自動で終了しません。先生が任意のタイミングでテストを終了します。
テストを終了すると、未提出の子どもも全員自動的に提出済み扱いとなります。
また、提出した後に子どもが解答を編集することはできません。

1 ［テスト終了］をタップ

2 ［終了する］をタップ



3 ［採点・返却する］をタップ



先生には、続けて採点画面が表示されます。

→ p.34

まだ提出できていなかった子どもの画面に「お疲れさまでした！」画面が表示され、テストは終了です。

すでに提出が完了していた子どもには何も表示されません。

先生が返却するまで、子ども画面にはテスト結果が表示されません。

ミライシード

テストパーク
利用マニュアル

4

実施後の操作

採点／返却

分析

先生

1 採点と返却

→ p.34

- テストが**自動採点**の場合：
  採点結果を確認し、問題なければ返却。
- テストが**手動採点**の場合：
  採点し、返却。

3 結果分析

→ p.46

平均点や正答率の低い問題を確認。

4 全体の概観とデータ出力

→ p.48

クラスごとに、これまでのテストの得点率を一覧で確認。CSVファイルに出力もできます。

子ども

2 結果確認

→ p.43

- 返却されたテストの結果と、問題の解説を確認。
- 間違った問題を解き直す。

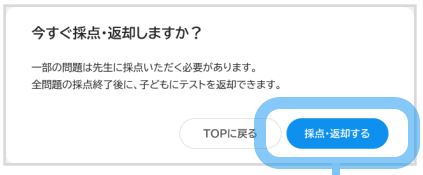
1 …… 採点と返却

- ほとんど（約８割）の問題は、テストの終了とともに自動採点されます。
  一部の記述式問題のみ、先生による手動採点となります。
  ただし、**自動採点であっても必ず先生が採点内容を確認してから、子どもに結果を返却してください。**
  採点が完了後、［返却する］をタップすると、子どもの画面にテストの結果が表示されます。

> **漢字問題の自動採点結果は、特に注意してご確認してください。**
> 漢字問題は自動採点されますが、マスをはみだしている場合や、不要な点や線などが文字に含まれてしまった場合などには**不正解**となります。必ず自動採点結果を確認し、先生のご指導に応じて許容される解答は正解に変更してください。
> ➔ 次ページ

- テスト採点画面には、**テスト終了直後に表示されるダイアログ**（「今すぐ採点・返却しますか？」）、または**テストパークトップ**（配信管理）画面の［採点・返却］ボタンから遷移できます。

テスト終了直後のダイアログ



テストパークトップ画面（配信管理）

テスト採点

採点は「設問ごと」または「子どもごと」の２通りの方法があります。

- **設問ごとに採点** … クラス全員など一斉に採点するときに便利な採点方法です。
- **子どもごとに採点** … 欠席した子どもだけに配信するテストなど、特定の個人のみ採点するときに便利な採点方法です。

基本的な流れは次ページを参照してください。

➔ 次ページ

漢字問題の自動採点結果の確認

必ずご確認ください。

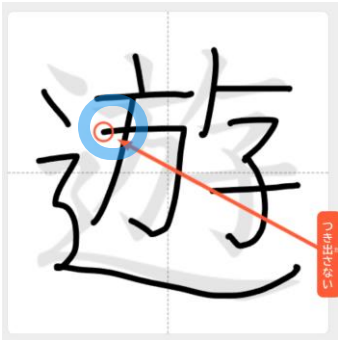
漢字問題は自動採点されますが、下記のような場合は**不正解**となっています。必ず自動採点結果を確認し、許容される解答は正解に変更してください（下図は一例です）。

✕ 余計な点や線が含まれている

✕ 入力欄をはみ出している

✕ 突き出すべき部分が浅い

✕ 突き出しすぎている



✕ 起筆が大きすぎる

✕ 位置が遠すぎる

✕ 線の角度が大きく異なる

1 基本的な流れ

1 ［設問ごと採点］または［子どもごと採点］をタップ

設問ごとに採点

詳細→p.37

クラス全員など一斉に採点するときに便利な採点方法です。

2 ［採点］をタップ

採点する**設問**の［採点］をタップします。

3 ○×△で採点

部分点のあるものは△で採点できます。点数も選択できます。

その設問に対する子どもの全解答が表示されます。

4 同様に、すべての設問/子どもを採点

5 ［返却する］をタップ

すべての設問/子どもの採点が完了し、「採点進捗」が100%になったら［返却する］をタップします。

子どもごとに採点

詳細→p.40

欠席した子どもだけに配信するテストなど個別に採点するときに便利な採点方法です。

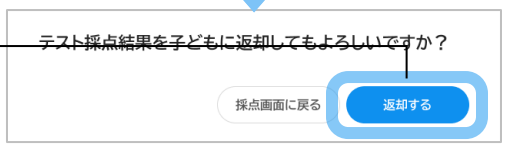
採点する**子ども**の［採点］をタップします。

その子どもの解答が表示されます。

すべての設問／子どもを採点

6 ［返却する］をタップ

子どもの画面（p.43）に返却されたテストが表示されます。



2 設問ごとに採点

設問一覧

設問ごとに採点

クラス
特定のクラスに絞り込めます。

採点済非表示
採点が完了していない問題（採点進捗欄で「採点済」になっていないもの）だけを表示できます。

返却する
すべての設問の採点が完了すると、［返却する］をタップできるようになります。

設問

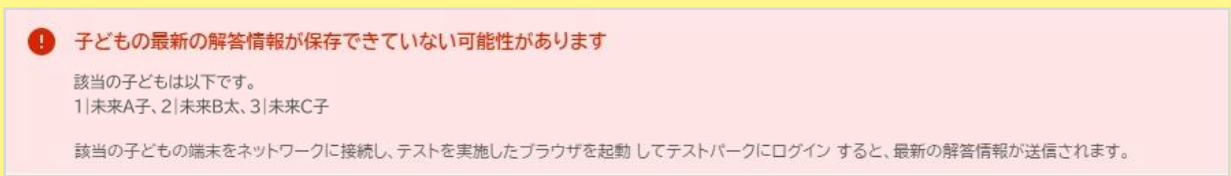
！
自動採点されている設問です。採点進捗が「採点済」になっていますが、返却前に必ず採点結果が正しいことを確認してください。

採点進捗
- 未採点…まだ１つも採点されていない設問です。
- 採点中…その設問中の進捗状況が％で表示されます。
- 採点済…採点済みの設問です。

採点
その設問の採点画面を表示します。
➜ 次ページ

解答一覧
採点が完了した設問は［採点］ボタンが［解答一覧］に変わります。採点結果を修正する場合（p.42）は［解答一覧］から修正します。

「子どもの最新の解答情報が保存できていない可能性があります」が表示される場合
端末またはネットワークの問題により、すべての解答が送信（＝提出）されていない子どもがいる場合に表示されます。
該当の子どもの端末をネットワークに接続し、テストパークを起動するとすべての解答が送信されます。
このとき、必ずその子どもが該当のテストを実施した端末とブラウザで作業してください。



採点画面

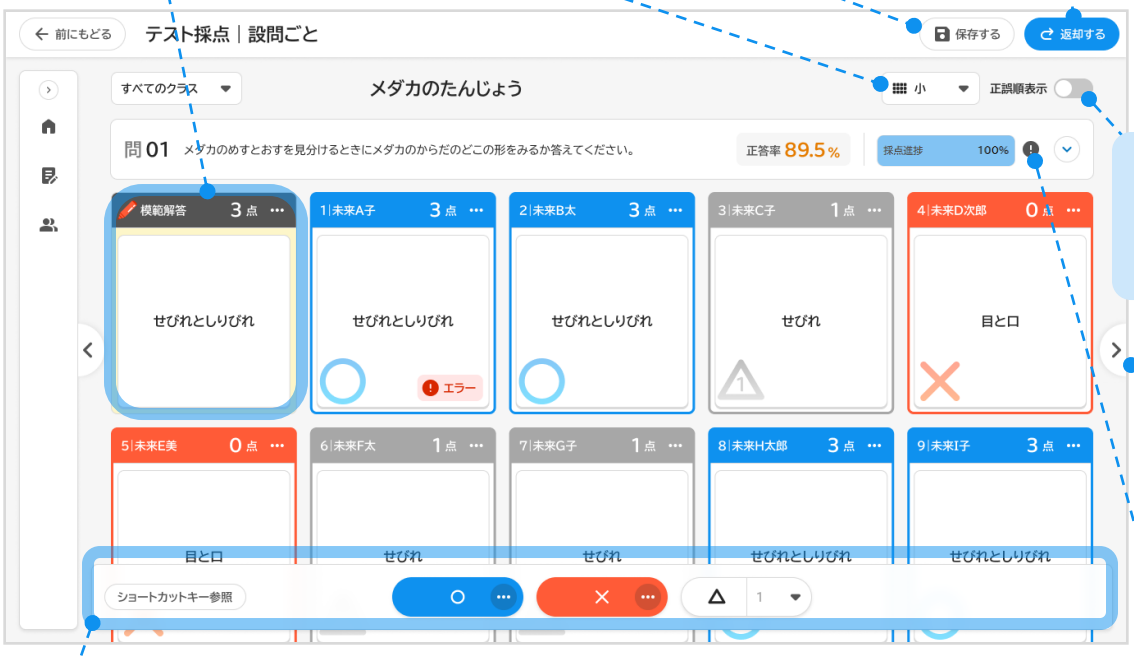
設問ごとに採点

模範解答
先頭に模範解答が表示されます。

サイズ
カードのサイズを変更できます。
→ 次ページ

保存する
採点を途中で終わるときは保存してください。

返却する
すべての設問の採点が完了すると、［返却する］をタップできるようになります。



正誤順表示
「正答」→「誤答」の順に並べられます。
→ 次ページ

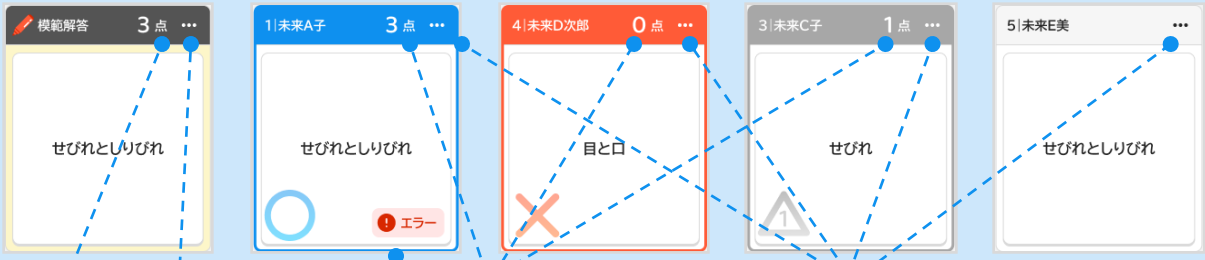
＜ ＞
前・次の設問を表示します。

採点ツールバー
→ 次ページ

!
自動採点されている記述式の設問です。採点進捗が「採点済」になっていますが、返却前に必ず採点結果が正しいことを確認してください。

カードの見方

▼模範解答　▼正答　▼誤答　▼部分点　▼未採点



配点

採点基準・出題の趣旨
右上の［…］をタップすると、「採点基準」と「出題の趣旨」を表示できます。

得点

エラー
端末またはネットワークの問題により、すべての解答が送信されていない子どもがいる場合に表示されます。該当の子どもの端末をネットワークに接続し、テストパークを起動するとすべての解答が送信されます。このとき、必ずその子どもが該当のテストを実施した端末とブラウザで作業してください。

解答画面・出題の趣旨
右上の［…］をタップすると、その子どもの解答画面（下図）が表示されます。解答画面上の手書きのメモも確認できます。

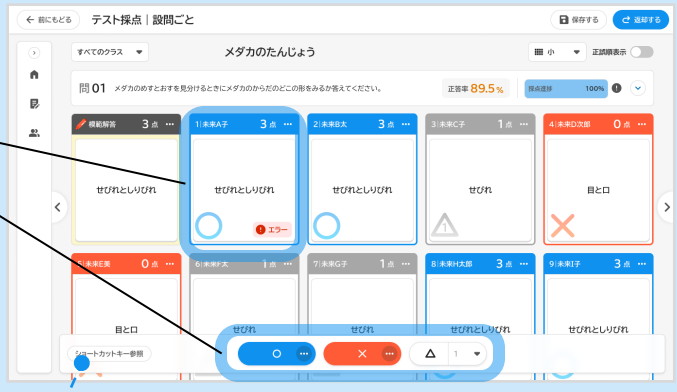
採点ツールバー

1つずつ採点したり、まとめて正誤をつけたりできます。

1つずつ採点する場合

1. 採点するカードをタップ
2. 正答の場合は［○］、誤答の場合は［×］、部分点の場合は［△］の得点を選択

部分点の場合は「△」横のプルダウンから得点を選択します。



ショートカットキー

キーボードで［○］［×］および部分点を入力できます。［ショートカットキー参照］をタップすると、キーを確認できます。

○ 正答をまとめて採点する場合

1. 「1つずつ採点する場合」の手順で、誤答（×）となる解答をすべて採点
2. ［○］横の［…］をタップし、［未採点を一括で○］をタップ

× 誤答をまとめて採点する場合

1. 「1つずつ採点する場合」の手順で、正答（○）となる解答をすべて採点
2. ［×］横の［…］をタップし、［未採点を一括で×］をタップ

サイズ

カードのサイズを変更できます。

▶ 小 ※初期値

▶ 中

▶ 大

正誤順表示

「正答」→「誤答」の順に並べられます。

3 子どもごとに採点

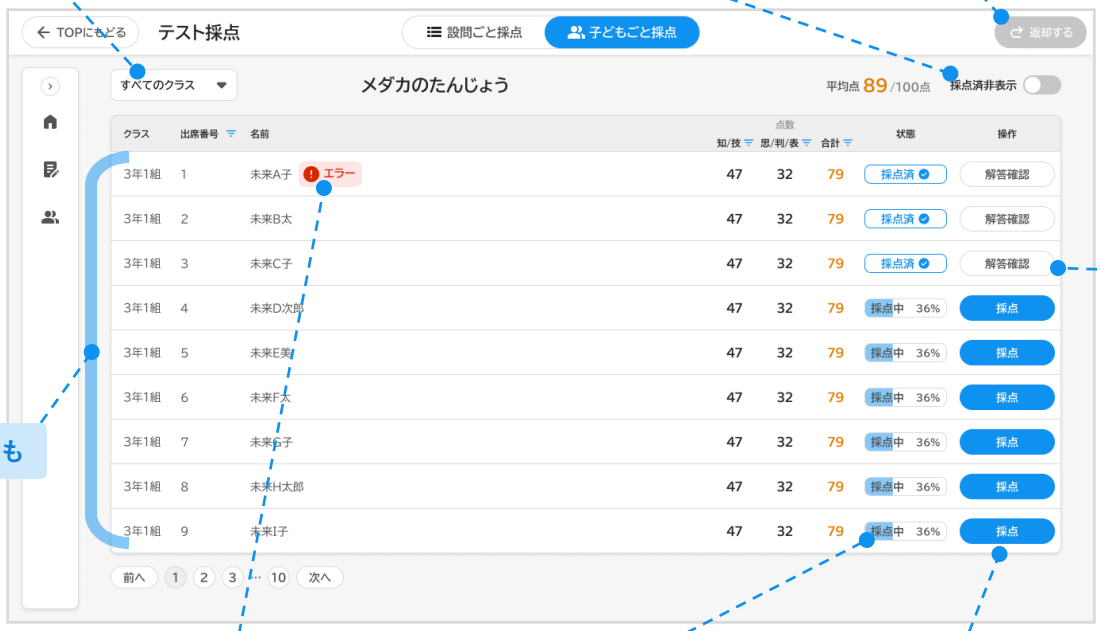
子ども一覧

子どもごとに採点

クラス
特定のクラスに絞り込めます。

採点済非表示
採点が完了していない子ども（採点進捗欄で「採点済」になっていないもの）だけを表示できます。

返却する
すべての子どもの採点が完了すると、［返却する］をタップできるようになります。



子ども

採点進捗
- 未採点…まだ１問も採点されていない子どもです。
- 採点中…その子どもの採点の進捗状況が％で表示されます。
- 採点済…採点済みの子どもです。

採点
その子どもの採点画面を表示します。
→ 次ページ

エラー
端末またはネットワークの問題により、すべての解答が送信されていない子どもに表示されます。
該当の子どもの端末をネットワークに接続し、テストパークを起動するとすべての解答が送信されます。
このとき、必ずその子どもが該当のテストを実施した端末とブラウザで作業してください。

解答確認
採点が完了した子どもは［採点］ボタンが［解答確認］に変わります。採点結果を修正する場合（p.42）は［解答確認］から修正します。

採点画面

子どもごとに採点

カードの見方

「設問ごとに採点」の場合と同じです。→p.38

エラー

端末またはネットワークの問題により、すべての解答が送信されていない子どもに表示されます。
該当の子どもの端末をネットワークに接続し、テストパークを起動するとすべての解答が送信されます。
このとき、必ずその子どもが該当のテストを実施した端末とブラウザで作業してください。

返却する

すべての子どもの採点が完了すると、［返却する］をタップできるようになります。

保存する

採点を途中で終わるときは保存してください。

！
自動採点されている記述式の設問です。採点進捗が「採点済」になっていますが、返却前に必ず採点結果が正しいことを確認してください。

＜ ＞

前・次の子どもを表示します。

採点ツールバー

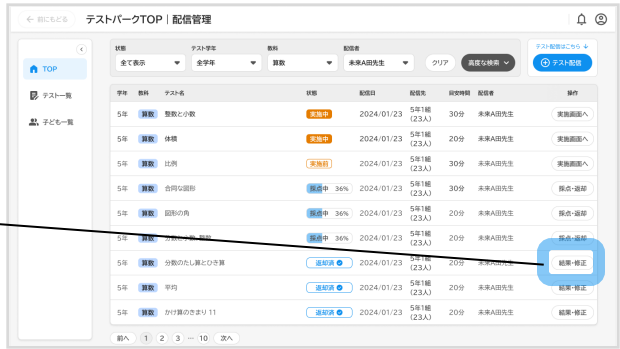
「設問ごとに採点」の場合と同じです。→p.39

模範解答

子どもの解答の下に模範解答が表示されます。

4 返却後に採点を修正するには

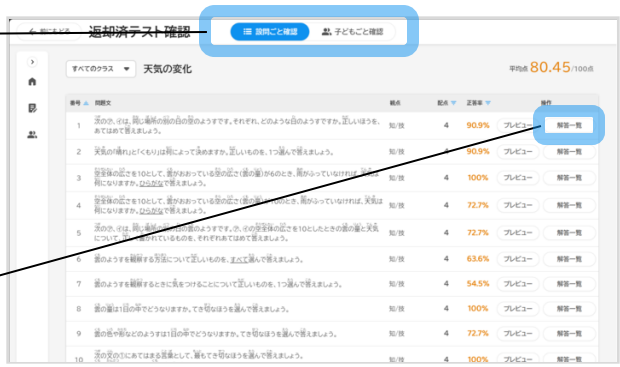
▼テストパークトップ（配信管理）画面



1 **修正するテストの［結果・修正］をタップ**

2 **［設問ごと確認］または［子どもごと確認］のいずれかをタップ**

どちらでも修正できます。いずれでも操作方法はほとんど同じなので、この手順では［**設問ごと確認**］の画面で操作を説明します。



3 **修正する設問の［解答一覧］をタップ**

4 **［採点修正］をタップ**

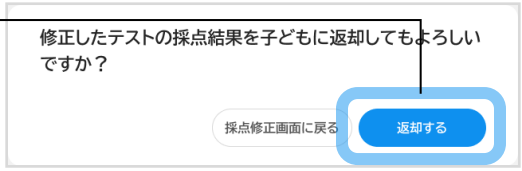
［採点修正］をタップすると修正できるようになります。

5 **採点を修正**

6 **点の修正が終わったら、［修正して返却する］をタップ**

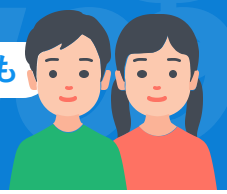
7 **［返却する］をタップ**

採点が修正されたことは**子どもには通知されません。**修正したことを子どもに通知する必要がある場合は、先生からお声かけください。



2 …… 結果確認

子ども



返却されたテストの結果と、問題の解説を確認します。

1 ［テスト結果へ］をタップ

- 「実施済みのテスト」欄に、返却されたテストが表示されています。
- 満点で返却されたテストには、「**たいへんよくできました**」スタンプが表示されます。

- 「再チャレンジ問題（間違えた問題）」を解き直し（➔次ページ）、すべて正解したテストには、「**クリア**」スタンプが表示されます。

解き直し進捗バー
「再チャレンジ問題」に取り組み、正答すると、進捗バーが進行します。

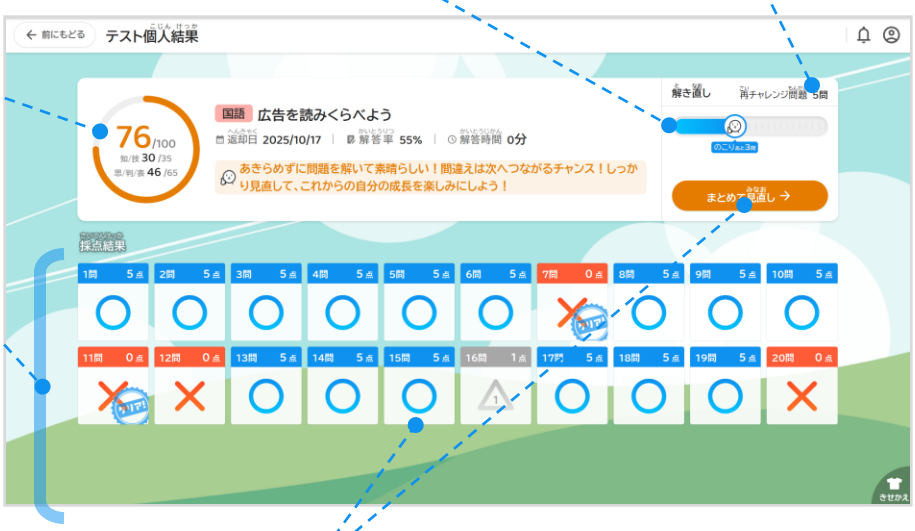
再チャレンジ問題
誤答だった問題数が表示されます。

合計得点

問題ごとの正誤

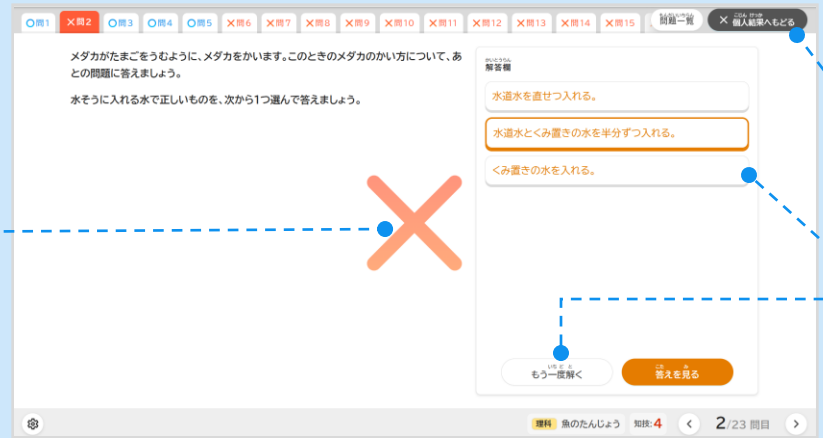
得点

- 正答＝○
- 誤答＝✕
- 部分点あり＝△
（三角の中の数字が点数）



まとめて見直し

［まとめて見直し］または問題をタップすると、問題、子どもの解答（手書きメモも含む）、正誤を表示します。



正誤

［個人結果へもどる］で「テスト個人結果」画面へ戻ります。

子どもの解答

［もう一度解く］で正誤に関わらず、問題を解き直すことができます。（➔次ページ）

解き直し

- テスト返却時の正誤に関わらず、問題を解き直すことができます。
- テスト返却時に誤答だった問題（「再チャレンジ問題」）に正答すると、その問題のステータスが「クリア」になります。

1 解き直したい問題をタップ

［まとめて見直し］をタップしても問題を表示できます。

2 ［もう一度解く］をタップ

3 問題に取り組む

問題に取り組んでいる間は、テスト返却時のメモや解答は表示されません。

4 ［答え合わせ］をタップ

答え合わせの手順は、その問題が**自動採点**か、**手動採点**かによって異なります。手動採点の問題は、子どもが自己採点します。

▼その問題が自動採点の場合

［**答え合わせ**］をタップすると、すぐ正誤が表示されます。答え合わせ後、［もう一度解く］で再度問題に取り組むこともできます。

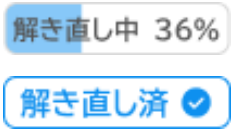
▼その問題が手動採点の場合

［答え合わせ］をタップすると、❶「**解答・解説**」が表示されます。この「解答・解説」見て自分の解答の正誤を考え、❷**正解の場合は**［○］、**不正解の場合は**［×］をタップします。タップすると、自動採点の場合と同様の画面（◀左図）が表示されます。

※子どもの手動採点には、部分点はありません。

解き直しで正答した場合

- 解き直して正答すると、小問タブや小問カードに、「**クリア**」スタンプが表示されます。誤答だった場合は「クリア」スタンプは表示されません。
- 一度「クリア」スタンプが表示された問題は、再度解き直して誤答になった場合でも、スタンプは削除されません。 ※ただし、先生による採点修正で、誤答が正答に変化した問題については「クリア」スタンプが削除されます。



先生の画面（**p.12**）にも、解き直し状況がステータスとして表示されます。
まだ再チャレンジ問題に取り組めていない、または、まだすべての再チャレンジ問題に正答できていない場合は「**解き直し中**」、すべての再チャレンジ問題を正答した場合は「**解き直し済**」が表示されます。

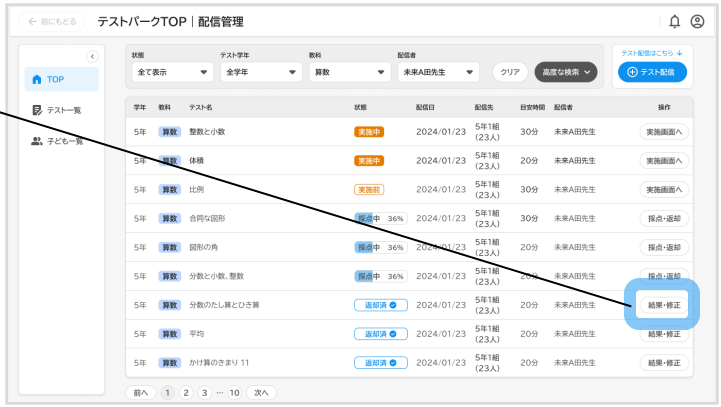
解き直しにあたっての留意点

- **小問タブ・小問カードには先生採点の正誤が残ります。**
  解き直して正解した問題であっても、小問タブ・小問カード・問題画面には先生による採点時の解答および正誤が残ります。解き直しの答え合わせが完了し、画面を切り替えると、解き直しでの正誤ではなく先生採点時の解答および正誤が表示されます。（解き直しで正解になっていることは、小問タブ等の「クリア」スタンプで確認してください。）
- **「メモ」も先生採点時のものが残ります。**
  解き直す際にもメモを利用できますが、解き直しの答え合わせが完了し、画面を切り替えると先生採点時のメモに戻ります。

3 …… 結果分析

平均点や正答率の低い問題を確認し、次の授業や指導に生かせます。

▼テストパークトップ画面（配信管理）



1 ［結果・修正］をタップ

2 ［設問ごと確認］または［子どもごと確認］をタップ

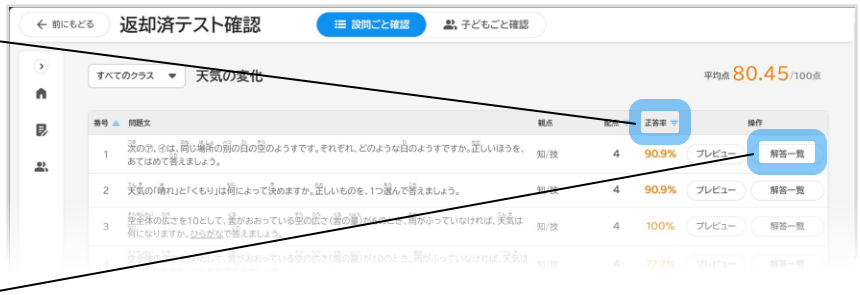
➔ 設問ごと確認…このページ下▼
➔ 子どもごと確認…次ページ

1 設問ごとに分析

ここでは「**正答率の低い設問を分析する**」を例に説明します。

1 ［正答率］の をタップし、［昇順］をタップ

正答率の低い順に並べ替えられます。一番上の行に表示されているのが最も正答率の低い設問になります。



2 ［解答一覧］をタップ

正答率が最も低い設問の［解答一覧］をタップします。

その設問の模範解答や子どもの正誤状況が表示されます。

3 **模範解答と誤答している子どもの解答を比べながら、誤答の傾向から何につまずいているかを探る**

2 子どもごとに分析

ここでは「**特に得点が低い子どもを分析する**」を例に説明します。

1 ［点数］の各項目の をタップし、、［昇順］をタップ

得点の低い順に並べ替えられます。
一番上の行に表示されているのが、その項目の得点が最も低い子どもになります。

状態

「再チャレンジ問題」（テスト返却時に誤答だった問題）の解き直し状況を確認できます。

- **返却済** … 返却したテストが、満点（満点のため、「再チャレンジ問題」がない）
- **解き直し中** … 「再チャレンジ問題」に取り組んでいないか、取り組んでいるがまだすべてに正答できていない
- **解き直し済** … すべての「再チャレンジ問題」に正答できている

2 ［解答確認］をタップ

得点が最も低い子どもの［解答確認］をタップし、詳しく見ていきます。

子どもの正誤状況が表示されます。

3 ［模範解答表示］をタップ

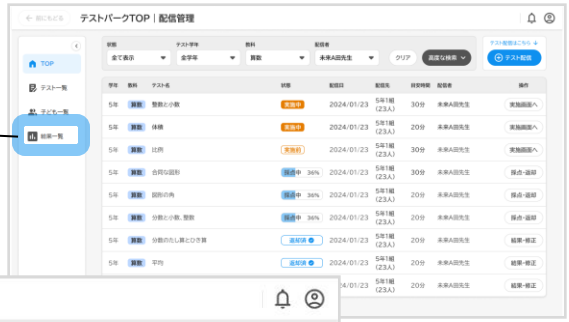
4 模範解答と子どもの誤答を比べながら、何につまずいているかを探る

4 …… 全体の概観とデータ出力

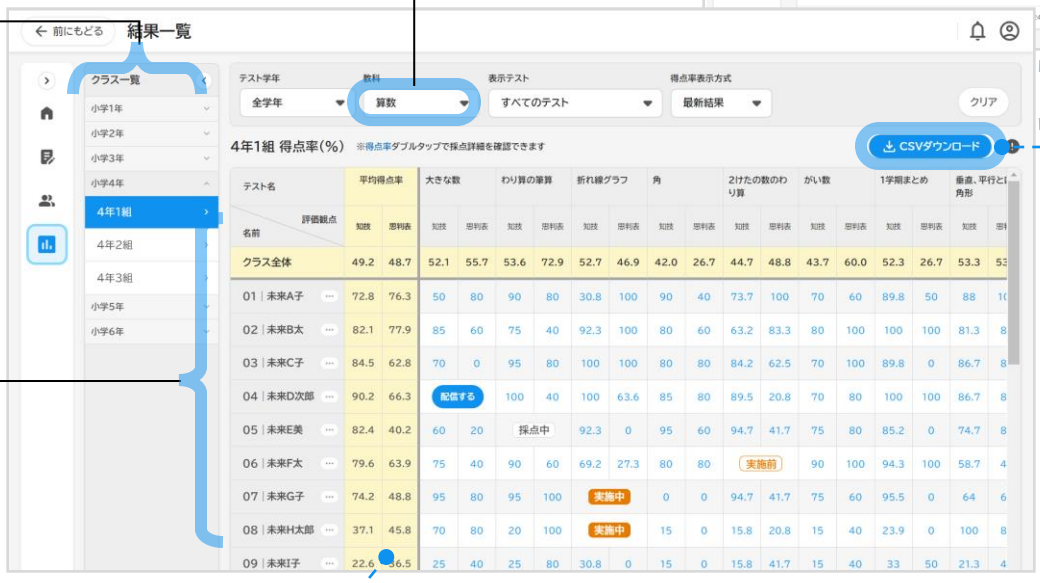
先生

クラスごとに、これまでのテストの得点率を一覧で確認。
CSVファイルに出力もできます。

▼テストパークトップ画面（配信管理）



1. ［結果一覧］をタップ
2. 任意の学年・クラスを選択
3. 任意の教科を選択
4. 得点率を確認



CSVダウンロード

表示中の内容をCSVに出力します。

得点率およびステータス

69.2

数字＝得点率
- 「知技」…知識／技能の得点率です。
- 「思判表」…思考／判断／表現の得点率です。
- 数字をダブルタップすると、「返却済テスト確認」の画面を表示します。

配信する

配信する
- そのテストがその子どもにまだ配信されていないときに表示されます。
- タップすると、その子どものほか、未受験の子どもにテストを配信できます。

実施前

実施前
- その子どもにテストをすでに配信しているが、まだ子どもが取り組んでいないときに表示されます。

実施中

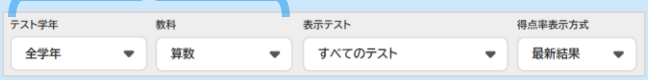
実施中
- 先生がテストを終了していないときに表示されます。

採点中

採点中
- テストが採点中で、まだ先生から返却されていないときに表示されます。
- タップすると、「テスト採点（子どもごと）」の画面を表示します。

絞り込み条件

テスト学年、教科
特定の学年のテストや、教科のみ表示できます。



表示テスト
特定のテストのみ表示できます。

※テストセットは「単元テスト」に、カスタムテストは「その他」に表示されます。

点数表示方式
子どもが複数回そのテストに取り組んでいる場合に、一覧上にどの回の成績を表示するかを選択できます。

初回結果
最新結果
最高点

初回結果
初回の結果を表示します。

最新結果
最新の結果を表示します。初期値は「最新結果」です。

最高点 最高点の回の結果を表示します。

「カルテ」で単元ごとの成績を確認

- ミライシードアプリ「**カルテ**」の「単元別学習レポート」では、**テストパークの成績を単元ごとにグラフで確認**できます。
- 加えて、オクリンクプラス、ドリルパークの同単元での学習データも１画面でまとめて表示。多面的で客観性のあるデータを材料に単元ごとの指導や評価をサポートします。
- 子どもにも同様の画面（※一部異なる）が表示されるため、**ふりかえり指導**にも活用できます。
- ExcelまたはCSVファイルにも出力できます。
- 詳しくは「カルテ」のマニュアルを参照してください。

▼ミライシード　ポータル画面

※**紺色**のアイコン

▼単元別学習レポートの表示例

単元「単元名小数のかけ算とわり算」での
未来 椎土さんの学習データ

オクリンクプラスでの学習データ

- 授業で提出したカード一覧
- 授業での評価平均

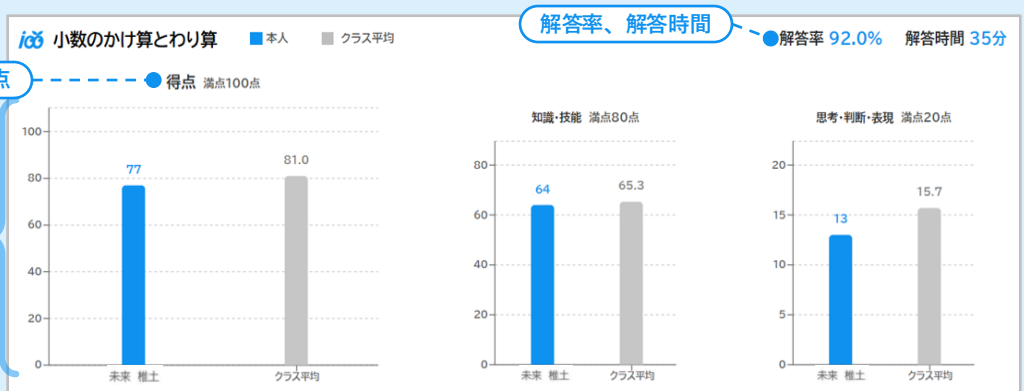
ドリルパークでの学習データ

- 自主学習への取り組み
- 課題への取り組み

テストパークでの学習データ

- テストでの成績

（カスタムテストの結果はデータに含まれません。）



※同一テストを複数回配信した場合は、初回配信分の成績データのみ表示されます。
※実施時と返却時の学期が異なるテストの場合は、期間「通年」を選択するとクラス平均も含めたグラフが表示されます。
期間の選択を「学期」にした場合、実施時の学期のほうにグラフが表示されます（ただし、クラス平均は表示されません）。

5 応用編

カスタムテストの作成 …… p.51

カスタムテストの作成

- オリジナルの問題で「**カスタムテスト**」を作成できます。１つのテストに最大50問設定できます。

カスタムテストは、他の先生には共有されません。
作成した先生のみ利用できます。

著作権法第35条に定める範囲で作成してください。
テキストおよび画像（ベネッセが提供する既存問題を含む）を利用する際は、著作権に十分ご留意ください。**➜p.67 著作権について**

▼オリジナル問題例

問題文　解答

作成できる問題文形式

※テキストエリアには、それぞれ最大5万文字入力できます。
※画像は「（虫眼鏡アイコン）」で拡大できます。

● テキストのみ

● テキスト＋横長画像

● テキスト＋正方形画像

作成できない問題文形式

以下の問題文形式は作成できません。

- × **音声ファイル**
- × **縦書き（国語）**
- × **数式**

作成できる解答形式

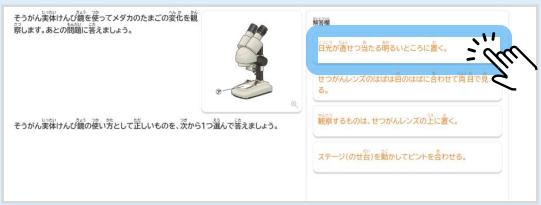
● 記述式

記述式問題（日本語、英語、数式）の解答形式です。指やタッチペンによる手書き、またはキーボード入力のいずれかを選んで解答します。

手書き　キーボード入力

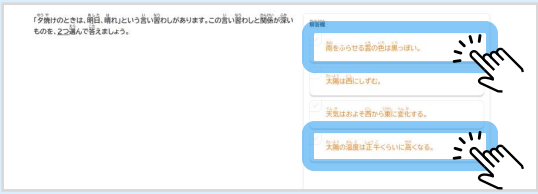
● 単一選択

選択肢の中から１つだけ選択する解答形式です。



● 複数選択

選択肢の中から複数を選択する解答形式です。



作成できない解答形式

以下の解答形式は作成できません。

- × **ドラッグ＆ドロップ分類**
  選択肢を解答欄の所定の位置にドラッグ＆ドロップして配置する解答形式
- × **ならべかえ**
  語順などを問う問題に対し、正しい順番で選択肢を並べ替える解答形式
- × **漢字問題**（書き取り、読み仮名）

テスト作成の流れ

1 テストを作成 このページ

テスト名などを設定します。（既存テストのコピーもできます。）

2 問題・解答を作成 p.54

問題文・解答・解説を入力します。（他のテストから問題を流用することもできます。）

3 テストを保存 p.63

必要な問題をすべて追加したら、テストを保存します。

1 テストを作成

1 ［テスト一覧］をタップ

2 ［テスト作成］をタップ

3 テスト名を入力

50文字までテスト名を入力します。

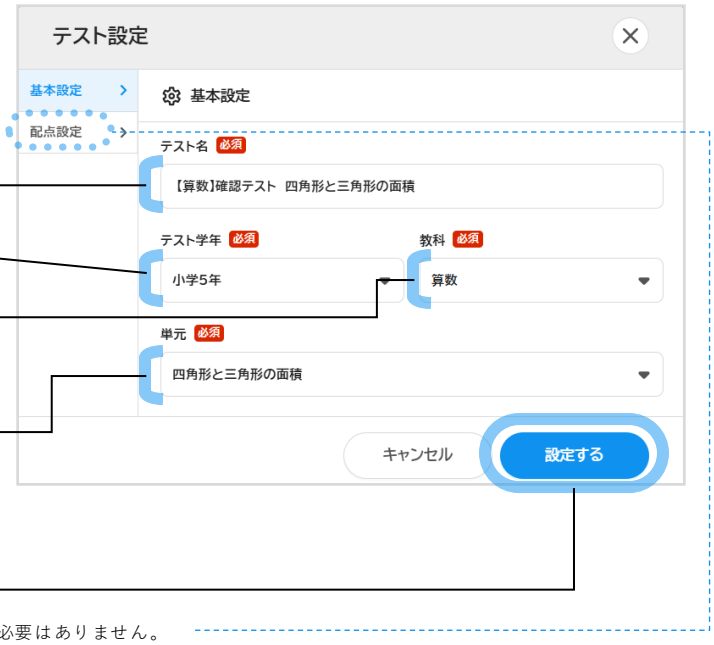
4 学年を選択

5 教科を選択

学年の選択に応じて、教科が表示されます。

6 単元を選択

学年・教科の選択に応じて、単元が表示されます。作成するテストの単元を選択します。



7 ［設定する］をタップ

※［テスト設定］の［配点設定］は、この段階では設定する必要はありません。

→2 問題・解答を作成へ…p.54

既存のテスト・問題を流用する

既存テストの一部の問題のみを変更・追加したいときは、既存のテストをコピーしてカスタムテストを作成します。

▼テスト一覧画面

1 ［テスト一覧］をタップ

2 テスト種別を選択

- **テストセット** …教科書に合わせたベネッセ提供のテスト群です。
- **カスタムテスト** …先生ご自身が作成したテストです。

3 **テストセットの場合はコピーするテストの［コピー］をタップ、カスタムテストの場合は［…］＞［コピーして作成］をタップ**

テストがコピーされ、テスト作成画面が表示されます。

4 ［設定］をタップ

5 テスト名を編集

- 初期状態では、テスト名が「**〈コピー元のテスト名〉のコピー**」になっているため、任意のテスト名に変更します。
- 他のカスタムテストと同じ名前は設定できません。
  →エラーメッセージ「**カスタムテストに登録されているテスト名と重複します。別の名称を設定してください**」が表示される場合はp.67へ

6 ［設定する］をタップ

コピーしたテストには、問題群もコピーされています。

［テスト一覧］画面の、［**一覧プレビュー**］または［**問題プレビュー**］からもテストセットのテストをコピーできます。
（問題群や、問題の詳細を確認してからテストをコピーできる方法です。）

▼テスト一覧　▼一覧プレビュー　▼問題プレビュー

2 問題・解答を作成

1で作成したテストに任意の問題を設定します。
（既存のテストをコピーした場合は、そのテストの問題群が複製されています。）

テスト作成画面の見方

問題作成の流れ

1 評価の設定 ▶ 2 問題文の作成 ▶ 3 解答の作成 ▶ 4 任意 解説の作成 ▶ 5 確認 ▶ 6 次の問題へ

1. 評価の設定

1 評価観点を選択

「知技」または「思判表」を選択します。

- **知技**…知識・技能
- **思判表**…思考力・判断力・表現力

2 点数を入力

- 1～100点まで入力できます。
- 点数を入力すると、**現在の合計点**が表示されます。合計点の最大値は999点です。テスト全体で999点以下になるよう調整してください。

2. 問題文の作成

1 レイアウトを選択

任意のレイアウトを選択します。

- **テキストのみ**
- **テキスト＋横長画像**
- **テキスト＋正方形画像**

2 テキストを入力

入力欄上のツールバーで、選択中テキストに対して下記の装飾ができます。

下線　斜体　囲み罫

テキストを選択して、テキスト入力欄上の任意の装飾ボタンをタップすると、選択部分が装飾されます。

ルビ

テキストを選択して［ルビ］を選択すると、「ルビ編集」画面（下図）でルビを入力できます。ここで入力したルビは**子どもが「総ルビ」を選択（p.23）したときのみ表示**されます。（「通常ルビ」が選択されていると、ルビが表示されません。）

1 ルビを入力

2 プレビューで確認

3 ［設定する］をタップ

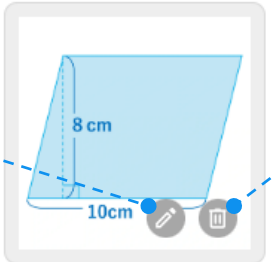
ルビを削除する場合は、［**ルビを解除する**］をタップ

3 画像のあるレイアウトの場合：［画像追加］をタップして画像を追加

追加できる画像形式：**jpg、jpeg、png、webp、heic**

配置後の画像

画像右下のボタンで編集または削除できます。



編集
別の画像に変更できます。

削除
画像を削除できます。

3. 解答の作成

1 解答形式を選択

任意の形式を選択します。

- 記述式
- 単一選択
- 複数選択

2 解答を入力

「記述式」の場合

1 モードを選択

- 「**日本語**」「**英語**」「**数式**」のいずれかを選択します。
- 「**数式**」を選択した場合は、数式用のキーボードが表示されます。

▼数式キーボード

数式を解答する問題は、**必ず「数式」モードで作成**してください。「日本語・英語」モードで作成した問題は、子どもが解答を正しく入力できません。

2 解答のテキストを入力

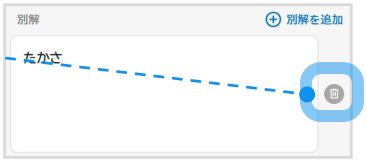
- 解答は、1000文字まで入力できます。
- 解答の**最大文字数**も設定できます。
  （「○文字以内で答えなさい」等の問題）

3 採点方式を選択

- 自動で採点する場合は「**自動**」、手動で採点する場合は「**手動**」を選択します。
- **自動**…解答となるテキストと完全一致する文字列のみを正答（◯）とし、テスト終了時に自動で採点します。
  （自動採点結果は、手動で修正することもできます。）
- **手動**…テスト終了後、手動で採点（◯×△）します。

4 別解がある場合は、［別解を追加］をタップして解答を追加

- 最大20まで別解を追加できます。
- 別解を削除する場合は［削除（ごみ箱アイコン）］をタップします。



「単一選択」の場合

1 モードを選択

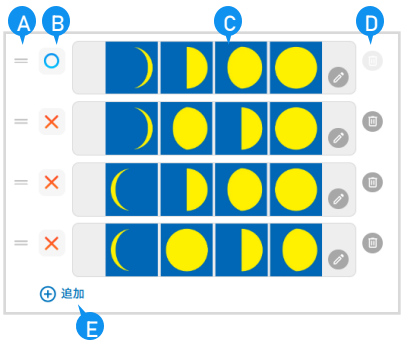
「**テキスト**」、「**横長画像**」、「**正方形画像**」のいずれかを選択します。

2 選択肢を入力

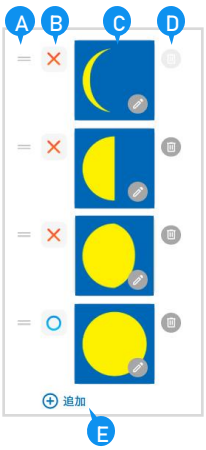
各モードの画面に従って、選択肢のテキストや画像、正誤を設定します。

テキスト

横長画像



正方形画像



A ＝

ドラッグ&ドロップで選択肢の順番を移動できます。

B 正誤（◯×）

正誤欄をタップすると、その選択肢が正解（◯）となります。他の選択肢は自動で不正解（×）に設定されます。

C 選択肢

- **テキスト**：テキストを入力します。（最大100文字）
- **画像**：［画像追加］をタップして画像を配置します。配置後の画像は、画像右下の［編集（鉛筆アイコン）］で変更できます。

D 削除

選択肢を削除します。

E 追加

選択肢を6つまで追加できます。

「複数選択」の場合

1 モードを選択

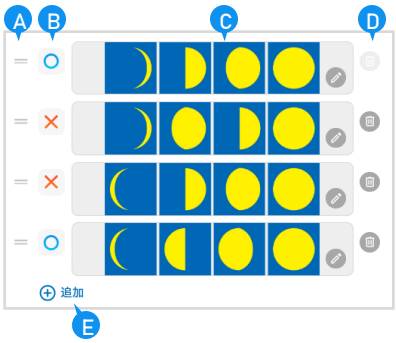
「**テキスト**」、「**横長画像**」、「**正方形画像**」のいずれかを選択します。

2 選択肢を入力

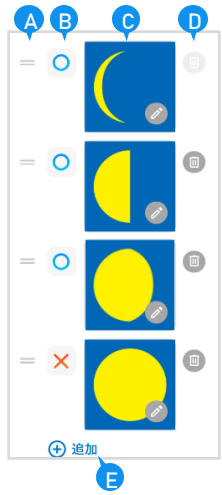
各モードの画面に従って、選択肢のテキストや画像、正誤を設定します。

テキスト

横長画像



正方形画像



A ＝

ドラッグ&ドロップで選択肢の順番を移動できます。

B 正誤（◯×）

正誤欄をタップすると、その選択肢が正解（◯）となります。もう一度タップすると不正解（×）になります。

C 選択肢

- **テキスト**：テキストを入力します。（最大100文字）
- **画像**：［画像追加］をタップして画像を配置します。配置後の画像は、画像右下の［編集（鉛筆アイコン）］で変更できます。

D 削除

選択肢を削除します。

E 追加

選択肢を6つまで追加できます。

4. 解説の作成 任意

子どもの［結果確認］画面に表示される解説も作成できます。

解説は、［結果確認］画面の［**解説を見る**］から表示します。

1. ［**解説**］**をタップ**
2. **解説のテキストを入力**
3. **必要に応じて、画像や追加のテキストを入力**
4. ［**保存する**］**をタップ**

5. 確認

問題文および解答欄がテスト画面でどのように見えるかを［プレビュー］で確認できます。

1. ［**プレビュー**］**をタップ**

- プレビュー画面が表示されます。
- プレビュー画面が表示されず、「**問題の見直しが必要です**」の画面が表示された場合は ➜ 次ページ

2. **正誤の判定状況や、解説などを確認し、［答え合わせ］をタップして正誤を確認**
3. **確認したら、［前に戻る］をタップ**

「問題の見直しが必要です」（右図▶）の画面が表示された場合

表示されている問題番号をタップすると、その問題の作成画面に移動します。作成画面には、**赤文字でのエラー等の内容が表示**されているので、画面の指示に従って修正してください。

エラーのある問題は、問題番号タブに「！」が表示されます。

6. 次の問題へ

- テスト作成画面に戻り、次の問題を設定します。
- 1テストにつき50問まで設定できます。

1 ［+］をタップ

2 p.55からの設定を繰り返す

➔必要な問題をすべて登録したら、3 テストの保存へ…p. .55

問題を削除する

- ［問題削除］をタップすると、すぐ問題が削除されます。（確認ダイアログは表示されません。）
- 削除した問題は元に戻せません。

1 削除する問題を選択

2 ［問題削除］をタップ

既存の問題を流用する

他のテストから問題を流用できます。また、一部の問題は問題文と解答を編集できます。

▼テスト作成画面

1 ［問題追加］をタップ

2 ［問題を選択］をタップ

3 「テストセット」または「カスタムテスト」を選択

- ［お気に入り］をオンにすると、あらかじめ「★」を設定したテストのみを一覧に表示できます。
- ［絞り込む］をタップすると、テスト学年、教科、単元、テスト名の条件で該当テストを検索できます。

4 テストをタップ

5 問題を選択

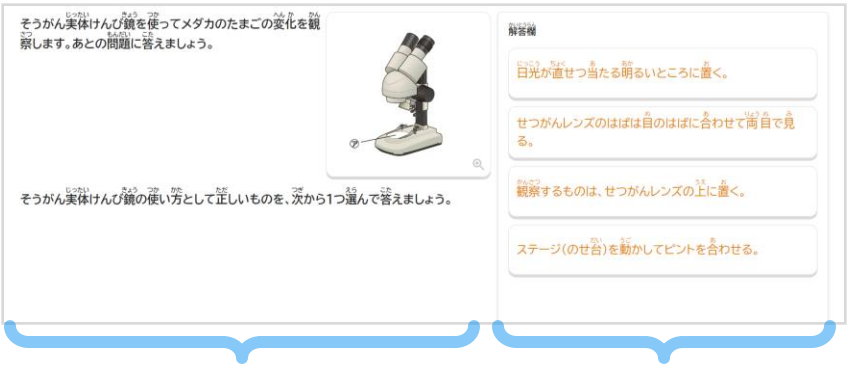
- **評価観点**（知技・思判表）、**採点方式**（自動・手動）の条件や、**解答**※に含まれるキーワードを入力して検索できます。
  ※正答だけでなく誤答の選択肢に含まれる言葉も検索されます。
- 最上段のチェックボックスにチェックを入れると、表示中のすべて問題を選択できます。

6 ［選択した問題を追加］をタップ

※一部の問題は、内容を編集できます。→次ページ

既存の問題を編集する

前ページの手順で追加した既存問題のうち、**下記形式の問題**は、問題文や解答を編集できます。



問題形式		解答形式	
問題文が**横書き**のテキスト ※画像の有無によらず	**かつ**	単一選択 複数選択 記述式	**の問題**

※ただし、上記形式であっても**スクロールのある画像**や**音声つき**の問題、**長文**問題、**著作権**のある問題は編集できません。

算数・数学で、数式のある問題を編集する場合

編集画面では**LaTeX形式**で表示されますが、実際のテストおよびプレビュー画面では数式として表示されます。

※ ミライシードファンサイト「よくあるご質問」の「問題文に数式を含むテストセットをコピーするとうまく表示がされません」も参照してください。

▼ **編集時の表示**（編集画面における数式表示）

1Lの重さが\(\frac{6}{7}\)kgの 油 があります。

▼ **実際のテスト**（またはプレビュー画面）**での表示**

1Lの重さが $\frac{6}{7}$ kgの油があります。

- 編集できない問題の場合は、「**※この問題は編集できません**」が表示されます。▶

3 テストを保存

すべての問題を作成したら、全体を見直してテストを保存します。

テスト保存の流れ

1. 問題の順番を調整 ▶ 2. 配点を調整 ▶ 3. 保存

1. 問題の順番を調整

1 ［問題一覧］をタップ

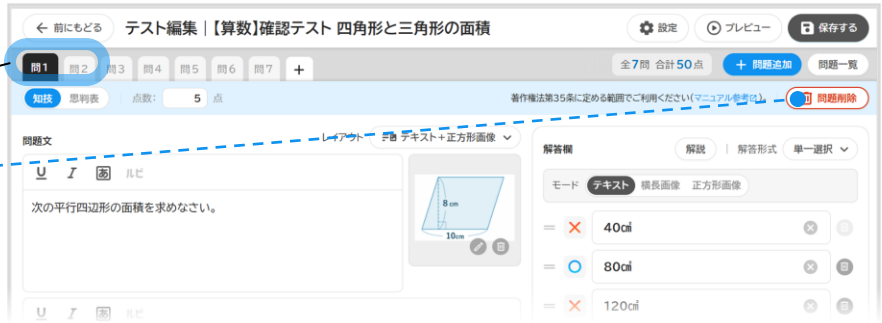
2 問題とその順番を確認

問題をタップすると、その問題の編集画面を表示します。

3 確認したら、［閉じる］をタップ

4 順番を入れ替える場合は、問題タブをドラッグ＆ドロップで入れ替え

問題を削除する場合は［**問題削除**］をタップします。



2. 配点を調整

1 ［設定］をタップ

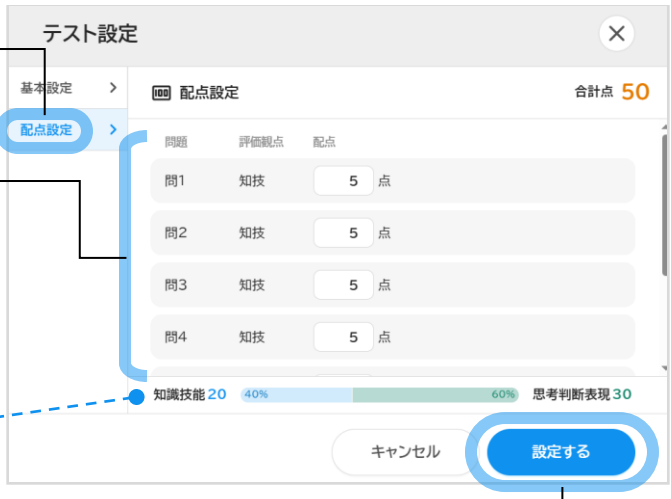
2 ［配点設定］をタップ

3 配点を確認

必要に応じて、点数を変更できます。

- 1問につき1～100点までで入力します。
- テスト全体で合計点が999点以下になるよう調整してください。

「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の点数比率も確認できます。



4 ［設定する］をタップ

3. 保存

1 ［保存する］をタップ

［保存する］をタップしたときに「**問題の見直しが必要です**」（下図▼）の画面が表示された場合は、表示されている問題番号をタップし、画面上の指示に従って適宜修正してください。**エラーがある状態ではテストは保存できません。**

2 ［保存する］をタップ

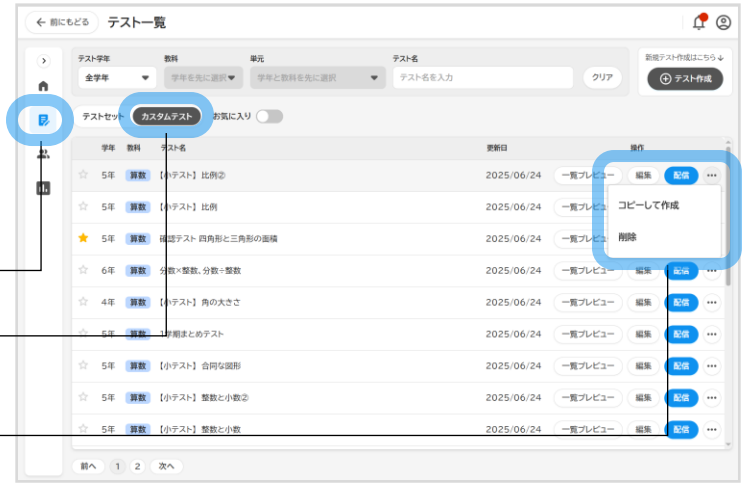
カスタムテストの修正

1. ［テスト一覧］をタップ
2. ［カスタムテスト］を選択
3. 修正するテストの［編集］をタップ
   - そのテストの作成画面が表示されます。配点や問題文・解答などを修正します。
   - テスト名、テスト学年、教科、単元や配点を変更するときは［**設定**］＞［**テスト設定**］で修正します。

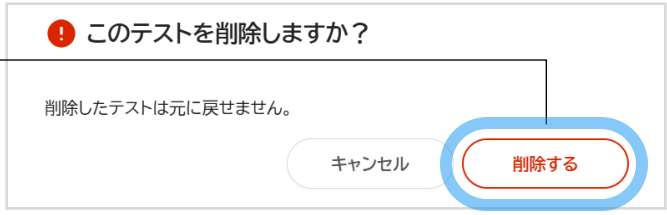
カスタムテストの削除

配信**前**のカスタムテストは削除できます。（配信**後**のカスタムテストは削除できません。）

削除したテストは元に戻せません。



1. ［テスト一覧］をタップ
2. ［カスタムテスト］を選択
3. 削除するテストの［…］をタップし、［削除］を選択
4. ［削除する］をタップ



6 よくあるご質問

配信したテストを修正できますか？

配信済みのテストは修正できません。
テストを削除し、正しい内容でテストを作成してください。

年度が変わっても、前年度のテスト結果は閲覧できますか？

- 可能です。先生、子どもいずれでも前年度のテスト結果の閲覧ができます。
- 前年度在籍していた先生が新年度に不在となった場合、該当の先生が前年度配信したテストは表示されません。
- 前年度に先生に所属学年、担任クラス、担当教科、授業を受け持つクラスのいずれも設定されていなかった場合、該当の先生が前年度配信したテストは表示されません。

年度更新時の注意事項はありますか？

- 新しいテストの配信は、ミライシードでの年度更新後、かつ、新年度(4/1)以降に配信可能となります。
  例：3/27に年度更新をした場合、4/1以降に新しいテストの配信ができるようになります。
  4/7に年度更新をする場合、4/1から4/7に年度更新をするまでの間は新しいテストの配信ができません。
- システム年度は、ミライシードの管理者が「年度更新ナビゲーション」で操作します。システム年度の更新日は御校の管理者にお問い合わせください。

エラーメッセージ「カスタムテストに登録されているテスト名と重複します。別の名称を設定してください」が表示されます。

- 名称が既存のカスタムテストと重複しているため、他のテスト名を設定してください。
- カスタムテストの名称は学校内で一意のものである必要があります。自身のカスタムテストの一覧には同名のテストが無いにも関わらずこのエラーメッセージが表示される場合は、校内の他の先生が同名のテストを作成しています。

7 著作権について

著作権について

教材をご利用いただくに当たっての、「著作権」に関するご確認事項を記載しております。
必ずお読みください。

2025/10 ベネッセコーポレーション　小中学校事業本部

1　本教材の著作権につきまして

- 本教材の著作権は、株式会社ベネッセコーポレーションに帰属します。
- 教材内で使用しています一部の文章・写真等の著作権は、当該著作物の著作権者に帰属します。
- 本教材の複製・修正に際しましては、著作権法で定めます許諾の不要なケースを除き、弊社及び著作権者への許諾申請をお願いします。

【許諾の不要なケース(一部)】
・私的使用のための複製（第30条）
・図書館等における複製（第31条）
・引用（第32条）
・教育機関における複製等（第35条）
・試験問題としての複製等（第36条）

2　学校教育で認められている複製等につきまして

- 上記の「許諾の不要なケース」の内、「著作権法第35条」で規定されています、教育機関で認められている他者の著作物の使用につき、次ページでポイントを絞ってご説明します。
- 詳細は、次々ページに掲載しています運用指針をご確認ください。
- 最新の情報については https://sartras.or.jp/unyoshishin/ をご確認ください。
- なお、「著作権法第35条」は下のとおりです。

著作権法第35条（学校その他の教育機関における複製等）

学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては 送信可能化を含む。以下この条において同じ。）を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。

2 前項の規定により公衆送信を行う場合には、同項の教育機関を設置する者は、相当な額の補償金を著作権者に支払わなければならない。

3 前項の規定は、公表された著作物について、第一項の教育機関における授業の過程において、当該授業を直接受ける者に対して当該著作物をその原作品若しくは複製物を提供し、若しくは提示して利用する場合又は当該著作物を第38条第1項の規定により上演し、演奏し、上映し、若しくは口述して利用する場合において、当該授業が行われる場所以外の場所において当該授業を同時に受ける者に対して公衆送信を行うときには、適用しない。

※著作権法の定めにより、授業目的公衆送信補償金制度は著作隣接権に対しても準用されます。
※「引用」などの権利制限規定が適用される場合には、無許諾で利用できます。なお、本条のほか、デジタル方式による私的録音録画（30 条 2 項）、教科書・デジタル教科書・営利目的の拡大教科書への掲載（33 条、33 条の 2、33 条の 3）、営利目的の試験への複製・公衆送信（36 条）、視聴覚教育センター等におけるビデオの貸出し（38 条 5 項）等については補償金の支払いが必要です。

3　学校での利用方法のポイント

学校等で、**「教育を担任する者及び授業を受ける者」**が、**「その授業の過程」**で使用する場合に、**「著作権者の利益を不当に害する」**ことがない場合、他者の著作物を複製等することができます。

1 教育を担任する者及び授業を受ける者

- 実際に授業を行う方と授業を受ける方です。
- 授業を行う方がご自分の授業で使用するために複製することが認められています。別の方(別の先生や教育委員会など)が他者の著作物を複製して作成したプリント等を共有して使うといったケースは、これに該当しません。

2 その授業の過程

- 「授業」には、教科・科目の授業だけでなく、学校行事やクラブ活動などの特別活動も含まれます。学校の教育計画に基づかない自主的な活動は含まれません。

3 必要と認められる限度

- 授業の内容や進め方等との関係においてその著作物を複製することの必要性を客観的に説明できる必要があります。
- 「必要と認められる限度」は授業の内容や進め方等の実態によって異なるため、外形だけで判断するのではなく、個々の授業の実態に応じて許諾が必要か不要かを判断する必要があります。
- 「必要と認められる限度」に含まれるとしても、後述の⑨−1「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」に該当する場合には、権利は制限されず許諾を得ることが必要となります。

参考資料：改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版） https://forum.sartras.or.jp/info/005/

4　改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）

2020年12月より

https://forum.sartras.or.jp/info/005/

（この運用指針は、2021年度からの「授業目的公衆送信補償金制度」の本格実施に際して適用されるべきものとして、文化庁の助言を受けながら、教育関係者、有識者、権利者で構成する「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」が作成したものになります。）

1. 用語の定義

①「複製」

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に再製することをいいます（著作権法第2 条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の利用についても同様です）。

該当する例	• 黒板への文学作品の板書 • ノートへの文学作品の書き込み • 画用紙への絵画の模写 • 紙粘土による彫刻の模造 ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー • コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファイルの記録メディアへの保存 • キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの保存 • パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存 • 著作物のファイルのサーバへのデータによる蓄積（バックアップも含む） • テレビ番組のハードディスクへの録画 ・プロジェクターでスクリーン等に投影した映像データを、カメラやスマートフォ ンなどで撮影すること

②「公衆送信」

放送、有線放送、インターネット送信（サーバへ保存するなどしてインターネットを通じて送信できる状態にすること（「送信可能化」を含む））その他の方法 により、不特定の者または特定多数の者（公衆※）に送信することをいいます（著作権法第2条1項7号の2、2条5項。著作隣接権の側面では、実演を放送・有線放送、送信可能化すること、レコードを送信可能化すること、放送・有線放送を再放送・再有線放送・有線放送・放送、送信可能化することがこれに相当します）。

ただし、校内放送のように学校の同一の敷地内（同一の構内）に設置されている放送設備やサーバ（構外からアクセスできるものを除きます）を用いて行われる校内での送信行為は公衆送信には該当しません。

該当する例	• 学外に設置されているサーバに保存された著作物の、履修者等からの求めに応じた送信 • 多数の履修者等（公衆）への著作物のメール送信 • 学校のホームページへの著作物の掲載 • テレビ放送 • ラジオ放送

※一般的に、授業における教員等と履修者等間の送信は、公衆送信に該当すると考えられます。

③「学校その他の教育機関」

組織的、継続的に教育活動を営む非営利の教育機関。学校教育法その他根拠法令（地方自治体が定める条例・規則を含む）に基づいて設置された機関と、これらに準ずるところをいいます。

該当する例（カッコ内は根拠法令）	• 幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校、各種学校、専修学校、大学等（学校教育法） • 防衛大学校、税務大学校、自治体の農業大学校等の大学に類する教育機関（各省の設置法や組織令など関係法令等） • 職業訓練等に関する教育機関（職業能力開発促進法等） • 保育所、認定こども園、学童保育（児童福祉法、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律） • 公民館、博物館、美術館、図書館、青少年センター、生涯学習センター、その他これに類する社会教育施設（社会教育法、博物館法、図書館法等） • 教育センター、教職員研修センター（地方教育行政の組織及び運営に関する法律等） • 学校設置会社経営の学校（構造改革特別区域法。営利目的の会社により設置される教育機関だが、特例で教育機関に該当）
該当**しない**例	• 営利目的の会社や個人経営の教育施設 • 専修学校または各種学校の認可を受けていない予備校・塾 • カルチャーセンター • 企業や団体等の研修施設

④「授業」

学校その他の教育機関の責任において、その管理下で教育を担任する者が学習者に対して実施する教育活動を指します。

該当する例	• 講義、実習、演習、ゼミ等（名称は問わない） • 初等中等教育の特別活動（学級活動・ホームルーム活動、クラブ活動、児童・ 生徒会活動、学校行事、その他）や部活動、課外補習授業等 • 教育センター、教職員研修センターが行う教員に対する教育活動 • 教員の免許状更新講習 ・通信教育での面接授業[1]、通信授業[2]、メディア授業[3]等 • 学校その他の教育機関が主催する公開講座（自らの事業として行うもの。収支予算の状況などに照らし、事業の規模等が相当程度になるものについては別途検討する） • 履修証明プログラム[4] • 社会教育施設が主催する講座、講演会等（自らの事業として行うもの）
該当<u>しない</u>例	• 入学志願者に対する学校説明会、オープンキャンパスでの模擬授業等 • 教職員会議 • 大学でのFD[5]、SD[6]として実施される、教職員を対象としたセミナーや情報提供 • 高等教育での課外活動（サークル活動等） • 自主的なボランティア活動（単位認定がされないもの） • 保護者会 • 学校その他の教育機関の施設で行われる自治会主催の講演会、PTA主催の親子向け講座等

※履修者等による予習、復習は「授業の過程」とする。
※次の①～③は、授業の過程での行為とする。
①送信された著作物の履修者等による複製
②授業用資料作成のための準備段階や授業後の事後検討における教員等による複製
③自らの記録として保存しておくための教員等または履修者等による複製
※高等専門学校は高等教育機関だが、中等教育と同様の教育課程等について本運用指針での対応する部分が当てはまる。

[1] 通学制の大学と同様の授業
[2] 教科書等（インターネット配信を含む）で学んで添削指導や試験を受ける授業
[3] インターネットを通して教員と学生が双方向でやりとりして学ぶ授業。リアルタイムに行う「同時双方向型」と、サーバにコンテンツを置く「非同時双方向型」がある。
[4] 社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラム。修了者には学校教育法に基づく履修証明書が交付される。
[5] Faculty Development。教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み
[6] Staff Development。職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組み

⑤「教育を担任する者」

授業を実際に行う人（以下、「教員等」）という）を指します。

該当する例	• 教諭、教授、講師等（名称、教員免許状の有無、常勤・非常勤などの雇用形態は問わない）

※教員等の指示を受けて、事務職員等の教育支援者及び補助者らが、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で複製や公衆送信を行う場合は、教員等の行為とする。

⑥「授業を受ける者」

教員等の学習支援を受けている人、または指導下にある人（以下、「履修者等」という）を指します。

該当する例	• 名称や年齢を問わず、実際に学習する者（児童、生徒、学生、科目等履修生、受講者等）

※履修者等の求めに応じて、事務職員等の教育支援者及び補助者らが、学校内の設備を用いるなど学校の管理が及ぶ形で複製や公衆送信を行う場合は、履修者等の行為とする。

⑦「必要と認められる限度」

「授業のために必要かどうか」は第一義的には授業担当者が判断するものであり、万一、紛争が生じた場合には授業担当者がその説明責任を負うことになります（児童生徒、学生等による複製等についても、授業内で利用される限り授業の管理者が責任を負うと考えるべきです。）。その際、授業担当者の主観だけでその必要性を判断するのではなく、授業の内容や進め方等との関係においてその著作物を複製することの必要性を客観的に説明できる必要があります。例えば、授業では使用しないものの読んでおくと参考になる文献を紹介するのであれば、題号、著作者名、出版社等を示せば足るにもかかわらず、全文を複製・公衆送信するようなことについて、必要性があると説明することは困難です。また、大学の場合、教員が学生に対して、受講に当たり教科書や参考図書として学生各自が学修用に用意しておくよう指示した書籍に掲載された著作物の複製・公衆送信も、一般的には「必要と認められる限度」には含まれないと考えられます。

「必要と認められる限度」は授業の内容や進め方等の実態によって異なるため、ある授業科目で当該授業の担当教員がある著作物を複製・公衆送信等を行っており、別の授業科目で他の教員が同様の種類の著作物を同様の分量・方法で複製等をしたとしても、実際の授業の展開によっては、一方は「必要と認められる限度」に含まれ、他方がそれに含まれないということも理論的にはあり得ます。したがって、外形だけで判断するのではなく、個々の授業の実態に応じて許諾が必要か不要かを判断する必要があります。

また、「必要と認められる限度」に含まれるとしても、後述の⑨「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」に該当する場合には、権利は制限されず許諾を得ることが必要となります。

⑧「公に伝達」

公表された著作物であって、公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することをいいます。

該当する例	• 授業内容に関係するネット上の動画を授業中に受信し、教室に設置された ディスプレイ等で履修者等に視聴させる。

⑨「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」

改正著作権法第 35 条では、著作権者等の許諾を得ることなく著作物等が利用できる要件を定めていますが、その場合であっても著作権者等の利益を不当に害することとなるときには、補償金を支払ったとしても無許諾では複製や公衆送信はできません。これは、学校等の教育機関で複製や公衆送信が行われることによって、現実に市販物の売れ行きが低下したり、将来における著作物等の潜在的販路を阻害したりすることのないよう、十分留意する必要があるからです。つまり、「教育機関において行われる複製や公衆送信」、「教員又は授業を受ける者による複製や公衆送信」、「それが授業の過程で利用されるもの」、「授業のために必要と認められる限度の複製や公衆送信」という要件のすべてを満たしていても、著作権者等の利益を不当に害することとなる場合にはこの規定は適用されず、著作権者等の許諾を得ることが必要になります。

以下では、著作権者等の利益を不当に害することとなるかどうかのキーワード（著作物の種類、著作物の用途、複製の部数、複製・公衆送信・伝達の態様）ごとに基本的な考え方と不当に害すると考えられる例を、初等中等教育と高等教育に分けて説明します。

説明の中で、「不当に害する可能性が高い（低い）」という書き方をしているのは、この運用指針で示す事例が確実に著作権侵害になる又はならないということを保証するものではないからです。関係者の見解の相違があった場合には、個々のケースごとに、利用者がその行為について授業の目的に照らして必要と認められる限度であることを客観的に説明し得るか、又は権利者がその利益を不当に害されたことを客観的に説明し得るかによって判断せざるを得ません。また、示した例は典型的なものであり、これらに限られるものではありませんので、ここにあげられていないケースについては「基本的な考え方」や典型例を基にして個別に判断する必要があります。どのような場合に不当に害することになるかについての「基本的な考え方」は、教育関係者がこれに委縮して利用を躊躇してしまうことは改正法の意図するところではありませんが、逆に学習者にとって良かれと思ってというような安易な発想に立つのも禁物です。⑦で述べたように、当該教育機関の目標やねらいに照らして必要と認められる限度で著作権者等の権利が制限されますが、その範囲の利用であっても、その行為が社会における著作物等の流通にどのような影響を及ぼすかについて留意する必要があります。本項は、それを考えるために「基本的な考え方」を整理したものです。このような構造と考え方を理解していただけると、ICT活用教育に伴う著作物利用について、相当 円滑に進むものと考えられます。

なお、ここに示したのは、第 35 条の規定に関する考え方であり、教育活動の中では、引用など他の規定の適用を受けて著作権者等の許諾を得ることなく著作物等を利用できる場合があります。

⑨－Ⅰ 初等中等教育

基本的な考え方

■著作物の種類■

○ 著作物の種類によって、そもそもこの規定を適用することが適切ではないものがあります。例えば「プログラムの著作物（アプリケーションソフトウェア）」です。学習用の市販のアプリケーションソフトウェアを一つだけ購入し、もしくは、Ⅰライセンスのみ購入し、それを学校の複数のPCにコピーして使用したり、児童・生徒に公衆送信して提供したりすることは、プログラムの著作物という種類に照らして著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。

○ この規定により著作権者の許諾を得ずに著作物を複製又は公衆送信する場合、複製又は公衆送信できる分量について「授業において必要と認められる限度において」と定められているところ、この要件を充足した場合であっても、市場での流通を阻害するような利用が著作権者等の利益を不当に害することとなりかねないことを考えると、著作物の種類によっては著作物の全体が利用できるのか、部分の利用に限られるのかが異なることもあります。このことについてどの著作物の種類が全部の利用ができるか、あるいはそうでないかを網羅的・限定的に示すことは困難ですが、例を挙げながらその考え方を示します。
短文の言語の著作物、絵画及び写真の著作物などの場合は、全部の利用が不可欠であるとともに、部分的に複製又は公衆送信することによって同一性保持権の侵害になる可能性があります。そのような種類の著作物であれば、一つの著作物の全部を複製又は公衆送信をしても著作権者等の利益を不当に害するとは言えない可能性があります。なお、この項でいう「複製又は公衆送信」は、授業に供する著作物を単体で利用する場合について述べたものであり、授業風景や解説の中継映像などの動画の中で影像の一部として、又は背景的にこれらの著作物が利用されている場合（専ら著作物等自体を提供するような行為でない場合）は、著作物の種類に関わらず、著作物の全部が複製又は公衆送信されていても著作権者等の利益を不当に害する可能性は低いと考えられます。

○ 厳密には「著作物の種類」という観点での区別ではありませんが、著作物の種類とも関連して著作物が提供されている状況や著作物を入手する環境によって、授業の目的で著作物の全部を複製することが、著作権者等の利益を不当に害することに該当する場合もあれば、そうでない場合もあります。以下はそのような観点から考え方を説明します。

- 一つのコンテンツの中に複数の著作物が含まれている場合、コンテンツと他の著作物の相互関係によって著作権者等の利益を不当に害するかどうかの分量が異なることもあり得ます。例えば、放送から録画した映画や番組であれば、通常、全部を複製することは著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いので、そのうちの必要な一部分にとどめて複製することが考えられます。その一部分に音楽や言語の著作物等が素材として含まれていた場合、その一部分の利用が授業のために必要な範囲であれば、その素材としての著作物等については全部の複製をしていても著作権者等の利益を不当に害することとなる可能性は低いと考えられます。
- 著作権者等の利益を不当に害するかしないかを判断する重要な観点は、複製や公衆送信によって現実に市販物の売れ行きが低下したり、将来における著作物の潜在的販路を阻害したりすることがあるか否かですので、利用者がその著作物を個別に入手（購入）できるかどうか、あるいはその利用許諾申請を著作権者等に、個別に又は包括的に行うことができるかどうかが一つのカギになります。相当程度に入手困難かつ、合理的な手段で利用許諾を得ることができない著作物であれば、この規定の適用を受けて複製できる著作物の分量については全部も可能となるものがあると考えられますので、個別に判断することが必要と考えられます。

＜全部を複製又は公衆送信しても著作権者等の利益を不当に害することとはならない可能性が高い例（授業に必要と認められる限度内であることを充足することが前提）＞

●採択された教科書中の著作物の利用
※「個々の作品（文章作品や写真・イラスト等）の他に、発行した出版社等による著作物も含まれる。
※採択された教科書の代替として使用される学習者用デジタル教科書の契約内の利用についても同様。
●俳句、短歌、詩等の短文の言語の著作物
●新聞に掲載された記事等の言語の著作物
●写真、絵画（イラスト、版画等を含む。）、彫刻その他の美術の著作物、及び地図

■著作物の用途■

○ その著作物がどのような目的で作成され、市場でどのように供給されているかによって、著作権者等の利益を不当に害することもあります。例えば、児童・生徒が全員購入し、利用する目的で販売されている問題集やドリルを、児童・生徒の購入の有無にかかわらず、教師が、授業の過程で児童・生徒に解かせるために複製又は公衆送信するようなことは、当該著作物の本来の流通を阻害することになります。
ただし、例えば、児童生徒がドリルを忘れてしまった際に、ドリルの一部をコピーして渡すというような行為は、許容されるでしょう。
また、採択していない教科書（採択外教科書）の中の著作物については、採択した教科書（採択教科書）と異なり、原則として、授業に必要な限度の範囲内で、通常の出版物の中の著作物と同様の複製・公衆送信が可能と考えられます。例えば、1 冊の採択外教科書の中の多くの著作物を複製・公衆送信する場合は、著作権者の許諾が必要です。

■複製の部数・公衆送信の受信者の数■

○ 複製部数や公衆送信の受信者の数が、授業を担当する教員等及び当該授業の履修者等の数を超えるような場合は、そもそも「授業のために必要と認められる限度」を超えており認められませんし、併せて著作権者等の利益を不当に害する可能性が高いと考えられます。ただし、授業参観や研究授業の参観者に、授業で配布する著作物と同一の著作物を配布することは、「必要と認められる限度」と考えられます（⑦「必要と認められる限度」を参照）。

■複製・公衆送信・伝達の態様■

○ 「複製の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、仮に全部の複製が認められるようなケースであっても、市販のような様態で製本し、複製することが考えられます。デジタルであるかアナログであるかは問いませんが、その複製物を単体で（教材の用途を超えて）他の利用に供することができるような場合には、著作権者等の利益を不当に害することとなる可能性が高いと考えられます。

○ 「公衆送信の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、学校、教育委員会のホームページや動画共有サービスなど、誰でもアクセスが可能なオープンなネットワーク環境（学校に在籍する教員や児童生 徒以外の不特定者が、誰でも受信できるような態様）で公衆送信することが考えられます（この場合は、同時に「必要と認められる限度」の要件も充足しません）。著作権者等の利益を不当に害することがないように公衆送信を行うには、たとえば、授業支援クラウドなどで、IDとパスワードを児童・生徒全員に設定し、限定された児童・生徒のみに公衆送信したり、コンテンツの非公開URLを履修者である児童・生徒のみに伝えたりするなどの方法があります。いずれにせよ、授業の過程で利用することを実質的にコントロールできているかどうかが重要です。

○ 「伝達の態様」に照らして著作権者等の利益を不当に害する場合の例としては、この規定が授業の過程での利用に係る制限規定であることを考慮すると、授業の履修者以外の者にも見せるような態様で伝達することが考えられます。ただし、オンライン授業で保護者が機器の操作を補助することが必要な場合は、保護者は授業を支援するものと考えられ、著作権者等の利益を不当に害さないと考えられます。（⑥「授業を受ける者」を参照）

＜不当に害する可能性が高いため、補償金の範囲では利用できない例＞

- 同一の教員等が、ある授業の中で、同一の書籍の中から1回目の授業で第1章、2回目で第2章を複製して配布するというように、同じ著作物や出版物の異なる部分を利用することで、結果としてその授業での利用量が当該著作物や出版物の多くの部分を使い、市販物の売れ行きを低下させるようなこと。
- 授業を行う上で、教員等や児童・生徒が通常購入し、提供の契約をし、又は貸与を受けて利用する著作物ついて、購入等の代替となるような態様で、複製や公衆送信すること。

  利用する著作物ついて、購入等の代替となるような態様で、複製や公衆送信すること。
  ・著作物の例
  ＜教科指導＞教師用指導書、参考書、資料集、問題集、ドリル、ワークブック、テスト・ペーパー、授業で教材として使われる楽譜、副読本、教育用映像ソフト
  ただし、履修者全員が購入していることが確認されている場合であって、問題の解説等を行う目的で付加的に複製等を行うことは許容される余地がある。
  ＜特別活動等＞演劇の脚本、読書会用の短編小説、部活動で使われる楽譜
- 美術、写真など、「不当に害しない可能性が高いと思われる例」において全部の利用が認められている著作物を市販の商品の売上に影響を与えるような品質で提供すること
- 市販あるいは長期間保存できるように製本して配布すること
- 組織的に素材としての著作物をサーバへストック（データベース化）すること